



(小字及ハ衆議院ノ修正ナリ)

## 恩給金庫法

## 第一章 總則

## 第一條 恩給金庫へ法人トス

## 第二條 恩給金庫ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要

ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

其ノ他ノ機關ニ其ノ業務ノ執行ニ關スル事

務ノ一部ノ取扱ヲ委託スルコトヲ得

シ又ハ官廳

第三條 恩給金庫ノ資本金ハ三千萬圓ト

シ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百

圓トス但シ資本金ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

政府ハ五百萬圓ヲ限リ恩給金庫ニ出資

スペシ

## 第四條 恩給金庫ハ出資ニ對シ勅令ノ定

ムル所ニ依リ出資證券ヲ發行ス

第五條 恩給金庫ノ出資者ノ責任ハ其ノ

出資額ヲ限度トス

出資者ハ恩給金庫ニ拂込ムベキ出資額

ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得

ズ

## 第六條 出資者ハ恩給金庫ノ承認ヲ經テ

其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第七條 拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ恩

給金庫ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ

拂込ノ請求ヲ爲シタルニ拘ラズ出資者ガ

拂込ヲ爲サザル場合ニ於テ持分ノ讓渡

ヲ恩給金庫ノ原簿ニ登録シタル後二年

ヲ超エザル讓渡人アルトキハ恩給金庫

ハ之ニ對シ期限ヲ定メ拂込ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ最モ先ニ滯納

金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人ハ其ノ持  
分ヲ取得ス前項ノ規定ニ依ル出資者及讓渡人ノ拂  
込ナキトキハ恩給金庫ハ主務大臣ノ認可  
ヲ受ケ該持分ヲ賣却スルコトヲ得賣却ニ依リテ得タル金額が滞納金額ニ満  
タザルトキハ從前ノ出資者ヲシテ其ノ不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得其ノ者  
ガ二週間内ニ之ヲ辨濟セザルトキハ前  
項ノ讓渡人ニ對シテモ其ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得前二項ノ規定ハ恩給金庫ガ損害賠償及  
定款ヲ以テ定ムル違約金ノ請求ヲ爲ス

コトヲ妨げズ

第八條 恩給金庫ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 資本金額及資產ニ關スル事項

五 役員及會議ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 恩給債券ノ發行ニ關スル事項

八 會計ニ關スル事項

九 公告ノ方法

十 定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更

スルコトヲ得

第十一條 恩給金庫ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 恩給金庫ニ非ザル者ハ恩給金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

## 第二章 役員

## 第十三條 恩給金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事一人以上ヲ置ク

## 第十四條 理事長ハ恩給金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

## 理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ恩給金庫ヲ代表シ、理事長ヲ輔佐シテ恩給金庫ノ業務ヲ掌理シ、理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長事故アルトキキハ其ノ職務ヲ行フ

## 監事ハ恩給金庫ノ業務ヲ監査ス

## 第十五條 理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ

## 恩給金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間恩給金庫ノ理

## 事長理事及監事ト爲ルコトヲ得ズ但シ主

## 務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

## 前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登

## 記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對

## リ登記ヲ爲スコトヲ得ズ

## 第十條 恩給金庫ニハ所得稅及營業收益

## 税ヲ課セズ

北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズ

ベキモノハ恩給金庫ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可事情ニ基ニ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於ケル課稅ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 恩給金庫ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 恩給金庫ニ非ザル者ハ恩給金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

## 第二章 業務

## 第十八條 恩給金庫ハ左ノ業務ヲ行フ

## 一 恩給法ニ依ル恩給ヲ擔保トスル貸付

## 二 動章年金(以下單ニ年金ト稱ス)ヲ擔保トスル貸付

## 三 恩給法以外ノ法令(地方公共團體ノ條例ヲ含ム)ニ依ル恩給ヲ擔保トスル貸付

## 四 恩給及年金ノ代理受領並ニ受領シタル金錢ノ寄託ノ引受

## 五 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

## 六 受クベキコトノ確實ナルモノニ付テハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコトヲ得

## 前項ノ規定ニ依リテ爲ス貸付ノ金額ハ裁定後ニ爲ス貸付ノ標準金額ノ半額ヲ超ユルコトヲ得ズ

## 第二十條 恩給金庫ハ先ツ恩給又ハ年金ノ支給金ヲ以テ貸付金ノ元利ニ充當スベシ

## 前項ノ規定ニ依リ充當ヲ爲シタル殘餘ノ貸付金ニ付テハ恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ債權ヲ拋棄スルコトヲ得

## 第二十一條 恩給金庫ハ其ノ債權ヲ確保

スル目的ヲ以テ命令ノ定ムル所ニ依リ  
債務者ニ代リテ恩給及年金ニ關スル請  
求其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 恩給金庫ハ左ノ方法ニ依ル  
ノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ  
得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可  
ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコ  
ト

二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又  
ハ郵便貯金ト爲スコト

第二十三條 恩給金庫ハ資本金ノ十分ノ  
一以上ノ拂込アリタルトキハ其ノ業務  
ヲ開始スルコトヲ得

#### 第四章 擔保ノ效力

第二十四條 擔保ニ供セラレタル恩給又  
ハ年金ハ恩給金庫ノミ其ノ支拂ヲ求ム

第二十五條 公務員（之ニ準ズル者ヲ含  
ム）ガ其ノ受クル恩給又ハ年金ヲ擔保  
ニ供シタルトキハ其ノ效力ハ其ノ遺族  
ノ受クベキ恩給又ハ年金ノ上ニ及ブコ  
トナシ但シ特約ヲ以テ承諾ヲ爲シタル  
遺族ノ受クベキ恩給又ハ年金ニ付テハ  
此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 擔保ニ供セラレタル者ヲ含  
ム）ガ其ノ受クル恩給又ハ年金ヲ求ム  
ルコトヲ得

第二十七條 恩給金庫ハ資本金ノ十分ノ  
一以上ノ拂込アリタルトキハ其ノ業務  
ヲ開始スルコトヲ得

#### 第五章 擔保ノ效力

第二十八條 恩給ヲ擔保ニ供シタル者  
ビ就職シ恩給ヲ停止セラル場合ニ於  
テハ恩給金庫ハ恩給ノ支給金ヲ以テ辨  
濟ヲ受クベキ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ  
者ノ受クベキ俸給中ヨリ貸付金額ノ辨  
濟ヲ受クルコトヲ得

#### 第六章 恩給債券

第二十九條 恩給又ハ年金ヲ擔保トスル  
ニハ其ノ證書ヲ恩給金庫ニ交付スペシ  
但シ恩給ノ裁定前豫メ之ヲ擔保トスル  
場合ハ此ノ限ニ在ラズ

#### 第七章 監督

第三十條 恩給ノ裁定前豫メ之ヲ擔保ト  
シテ貸付ヲ爲シタルトキハ恩給金庫ハ  
遲滞ナク裁定廳ニ其ノ要旨ヲ申告シ置  
クコトヲ要ス

#### 第八章 債權

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル申告ヲ受  
ケタル件ニ付恩給給與ノ裁定ヲ爲シタ  
ルトキハ裁定廳ハ恩給證書ヲ恩給金庫  
ニ交付スペシ

#### 第九章 資本

第三十二條 裁定ヲ經タル恩給又ハ年金  
ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲シタルトキハ恩  
給金庫ハ遲滞ナク恩給ノ裁定廳又ハ賞  
勳局及支給廳ニ其ノ旨ヲ申告スペシ擔  
保權ノ消滅シタルトキ亦同ジ

#### 第十章 管理

第三十三條 恩給金庫ニ擔保ニ供セラレ  
タル恩給又ハ年金ニ付證書ノ再發行ヲ  
進級増額若ハ更正セラル場合ニ於テ  
恩給金庫ガ改定、進級増額又ハ更正前  
キハ恩給金庫ハ當然新恩給又ハ新年金  
ノ上ニ擔保權ヲ有ス

ヨリ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ債務ノ完  
済ニ至ル迄ハ其ノ恩給ヲ受クルノ權利  
ヲ拠葉スルコトヲ得

第二十七條 再就職其ノ他ノ事由ニ因リ  
恩給ガ改定若ハ更正セラレ又ハ年金方  
テノ上ニ擔保權ヲ有ス

第二十八條 恩給ヲ擔保ニ供シタル者  
ビ就職シ恩給ヲ停止セラル場合ニ於  
テハ恩給金庫ハ恩給ノ支給金ヲ以テ辨  
濟ヲ受クベキ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ  
者ノ受クベキ俸給中ヨリ貸付金額ノ辨  
濟ヲ受クルコトヲ得

第二十九條 恩給金庫ハ拂込資本金額ノ  
十五倍ヲ限り恩給債券ヲ發行スルコト  
ヲ得但シ其ノ貸付金及所有ニ係ル有價  
證券ノ現在高ヲ超過スルコトヲ得

第三十條 恩給金庫ハ拂込資本金額五十  
圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者  
又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコ  
トヲ得

第三十一條 恩給債券ハ額面金額五十  
圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者  
又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコ  
トヲ得

第三十二條 恩給債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行  
スルコトヲ得

第三十三條 恩給金庫ハ恩給債券借換ノ  
爲一時第三十五條ノ制限ニ依ラズ恩給  
ノ出資ニ對スル剩餘金ノ配當ヲ減額シ  
又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第三十四條 恩給金庫ハ設立ノ時及毎事  
業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對照  
表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之  
ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

第三十五條 恩給債券ハ賣出ノ方法ヲ以  
テ之ヲ發行スルコトヲ得

第三十六條 恩給債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行  
スルコトヲ得

第三十七條 恩給金庫ハ恩給債券借換ノ  
爲一時第三十五條ノ制限ニ依ラズ恩給  
ノ出資者及債權者ハ業務時間内何時ニテ  
モ前項ニ掲タル書類ノ閲覽ヲ求ムルコ  
トヲ得

第三十八條 恩給債券ハ賣出ノ方法ヲ以  
テ之ヲ發行スルコトヲ得

第三十九條 恩給金庫ニ於テ恩給債券ヲ  
發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可  
ヲ受クベシ

第四十條 恩給債券ノ消滅時效ハ元金ニ  
在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年  
テ以テ完成ス

第四十一條 所得稅法、資本利子稅法及  
有關スル規定ハ恩給債券ニ之ヲ準用ス  
テ之ヲ定ム

第四十二條 本章ニ規定スルモノノ外恩  
給又ハ年金ヲ改定、進級増額又ハ更正  
庫ニ交付スペシ擔保ニ供セラレタル恩  
給又ハ年金ヲ改定、進級増額又ハ更正  
スルニ當リ新ニ證書ヲ發行スル場合亦  
同ジ

第四十三條 本章ニ規定スルモノノ外恩  
給又ハ年金ノ擔保ノ實行ニ關シ必要ナ  
ル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 恩給金庫ハ每事業年度ニ於  
テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上  
ヲ積立ツベシ

第四十五條 恩給金庫ハ成立後二十事業  
年度ノ間ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府  
ノ出資ニ對スル剩餘金ノ配當ヲ減額シ  
又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第四十六條 恩給金庫ハ設立ノ時及毎事  
業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對照  
表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之  
ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

第四十七條 恩給金庫ハ內閣總理大臣及  
大藏大臣之ヲ監督ス

第四十八條 恩給金庫ハ主務大臣ノ認可  
ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲  
スコトヲ得

第四十九條 恩給金庫ニ於テ恩給債券ヲ  
發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可  
ヲ受クベシ

ニ於テ貸付利率ノ最高限度其ノ他貸付

ニ關スル條件ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ

受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同

ジ

第五十條 主務大臣ハ恩給金庫ニ對シ業

務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、

検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令

ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 主務大臣ハ特ニ恩給金庫監

理官ヲ置キ恩給金庫ノ業務ヲ監視セシ

ム

第五十二條 恩給金庫監理官ハ必要アリト認ムルト

モ恩給金庫ノ業務及財產ノ狀況ヲ検査

スルコトヲ得

恩給金庫監理官ハ必要アリト認ムルト

キハ何時ニテモ恩給金庫ニ命ジテ業務及

財產ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

恩給金庫監理官ハ恩給金庫ニ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十三條 役員ガ法令、定款若ハ主務

大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル

行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ

解任スルコトヲ得

第五十四條 左ノ場合ニ於テハ恩給金庫

ノ理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千

圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ク

ベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第二十二條ノ規定ニ違反シ業務上

ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四 第三十五條又ハ第三十七條第二項

ノ規定ニ違反シ恩給債券ノ發行ヲ爲

シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

五 主務大臣ノ監督上ノ命令又ハ處分

ニ違反シタルトキ

六 第五十二條ノ規定ニ依ル恩給金庫監理官ノ検査ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第五十五條 左ノ場合ニ於テハ恩給金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第四十六條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

第五十六條 第十二條ノ規定ニ違反シ恩給金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第五十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ

恩給金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ

處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務

大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集

スベシ

第六十一條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員

ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシキ

ムルコトヲ要ス

第六十二條 出資第一回ノ拂込完了シタ

ルトキハ出資者ノ總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ恩給金庫ハ之ニ因リテ成立ス此ノ場合ニ於テハ

設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ恩給金庫

事務長ニ引繼グベシ

第六十三條 本法ニ規定スルモノノ外恩

給金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條 登錄稅法中第六條ノ二ヲ第六條ノ三トシ第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條ノ二 恩給金庫カ恩給債券ニ付

登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ

一 恩給債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込

每回拂込金額 千分ノ二

二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止

毎一件 金十圓

第六十五條 登錄稅法第十九條第七號中「產業組合」ノ上ニ「恩給金庫」ヲ、「產

業組合法」ノ上ニ「恩給金庫法」ヲ加フ

第六十六條 印紙稅法第五條中第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ二 恩給金庫ノ發スル出資證券又ハ貸付業務ニ關スル證書帳簿

第六十七條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第六十八條 前項ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集

スベシ

第六十九條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第六十條 前項ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集

スベシ

第六十一條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第六十二條 前項ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集

スベシ

第六十三條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第六十四條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第六十五條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第六十六條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第六十七條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第六十八條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第六十九條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第七十條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第七十一條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第七十二條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第七十三條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第七十四條 設立委員ハ出資者ノ募集終

リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ



第三號表

等階		傷病原因		等差		等		等		等	
率	等階	將官	佐官	士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二四割	勅親任任	佐官	佐官	士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二六割	至三等乃至六等乃	奏任待遇	判任	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二八割	至九等乃	待遇	一等	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二八割	二等	待遇	二等	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
三〇割	三等	待遇	四等	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
三一割	四等	待遇	海軍	陸軍上等兵	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
三四割	海軍	陸軍上等兵	陸軍二等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵
三六割	海軍二等兵	陸軍二等兵	陸軍三等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵
三六割	海軍三等兵	陸軍三等兵	陸軍四等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵
三六割	海軍四等兵	陸軍四等兵	陸軍五等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵

別表第四號表ヲ左ノ如ク改ム

第四號表

等階		傷病原因		等差		等		等		等	
率	等階	將官	佐官	士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二四割	勅親任任	佐官	佐官	士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二六割	至三等乃至六等乃	奏任待遇	判任	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二八割	至九等乃	待遇	一等	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二八割	二等	待遇	二等	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
三〇割	三等	待遇	四等	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
三一割	四等	待遇	海軍	陸軍上等兵	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
三四割	海軍	陸軍上等兵	陸軍二等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵
三六割	海軍二等兵	陸軍二等兵	陸軍三等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵
三六割	海軍三等兵	陸軍三等兵	陸軍四等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵
三六割	海軍四等兵	陸軍四等兵	陸軍五等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵

別表ニ左ノ四表ヲ加フ

第五號表

等階		傷病原因		等差		等		等		等	
率	等階	將官	佐官	士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二四割	勅親任任	佐官	佐官	士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二六割	至三等乃至六等乃	奏任待遇	判任	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二八割	至九等乃	待遇	一等	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
二八割	二等	待遇	二等	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
三〇割	三等	待遇	四等	准士官	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
三一割	四等	待遇	海軍	陸軍上等兵	下士官	兵	官	士官	下士官	兵	兵
三四割	海軍	陸軍上等兵	陸軍二等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵
三六割	海軍二等兵	陸軍二等兵	陸軍三等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵
三六割	海軍三等兵	陸軍三等兵	陸軍四等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵
三六割	海軍四等兵	陸軍四等兵	陸軍五等兵	下士官	兵	官	官	士官	下士官	兵	兵

第一條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニシテ本法所定ノ增加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當勅令ノ定ム所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ左記下欄相當ノ增加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ給ス

第一條 本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十一條第二項ノ規定ハ恩給金庫設立後三年間之ヲ適用セズ

第三條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ傷病年金ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニハ勅令ノ定ム所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ左記下欄相當ノ增加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ給ス

現症狀等差	改正症狀等差
傷病年金第三款	增加恩給第七項
傷病年金第二款	傷病年金第一款
傷病年金第四款	傷病年金第三款

等階		遺族數		等		等		等		等	
率	等階	勅親任任	任任	奏任待遇	奏任	待遇	待遇	遇遇	遇	遇	遇
一四・四割	五人以上	一五割	一〇割	○五割	一七五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
一五・六割	四人	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
一六・八割	三人	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
一七・〇割	二人	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
一七・二割	一人	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割

第八號表

等階		遺族數		等		等		等		等	
率	等階	勅親任任	任任	奏任待遇	奏任	待遇	待遇	遇遇	遇	遇	遇
一九・二割	一等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二〇・八割	二等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二一・六割	三等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二二・〇割	四等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二二・六割	五等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二三・〇割	六等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二三・六割	七等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二四・〇割	八等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二四・六割	九等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二五・四割	十等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二六・八割	十一等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二七・二割	十二等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二八・六割	十三等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割
二九・〇割	十四等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割

第七號表

等階		將官		佐官		尉官		准士官		下士官		兵	
率	等階	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵
一九・二割	一等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二〇・八割	二等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二一・六割	三等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二二・〇割	四等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二二・六割	五等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二三・〇割	六等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二三・六割	七等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二四・〇割	八等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二四・六割	九等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二五・四割	十等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二六・八割	十一等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二七・二割	十二等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二八・六割	十三等	一五割	一七五割	一〇割	二五割	二五割	三〇割	二〇割	二五割	三五割	四五割	四五割	四五割
二九・〇割	十四等	一五割	一七五割	一〇割	二五割</								

第四條 本法施行ノ際恩給法第七十五條  
第二項ノ規定ニ依リ加給ヲ受ケ又ハ受  
クベキ者ニ付テハ其ノ扶助料年額ガ改  
正後ノ同條第一項第二號乃至第四號及  
同條第二項ノ規定ニ依リ受クベキ扶助  
料年額ヨリ多キトキハ其ノ加給期間ヲ  
経過スル迄改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ  
規定ニ依ル

第五條 本法施行前賑恤金（之ニ準ズル  
モノヲ含ム）又ハ傷病賜金ヲ受クベキ  
事由ヲ生ジタル者ト雖モ其ノ症狀傷病  
年金ヲ給スベキ症狀ニ該當スルトキハ  
勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査  
定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第六條 恩給法施行前ニ戰鬪又ハ戰鬪ニ  
準ズベキ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病  
ニ罹リ之ガ爲死亡シ又ハ此ノ種ノ公務  
ニ因リ增加恩給（之ニ準ズルモノヲ含  
ム）ヲ受ケタル軍人ノ寡婦、父母又ハ祖  
父母ニシテ軍人死亡ノ當時軍人ト同一  
戸籍内ニ在リタルモ軍人現役中陸海軍  
兵籍簿ニ登記セラレザリ等ノ特別事  
由ニ因リ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリ  
シ者ニハ昭和十三年四月一日ヨリ之ニ  
扶助料ヲ給ス但シ其ノ軍人ノ遺族ニシ  
テ同日ニ於テ現ニ扶助料ヲ受クル者ア  
ルトキハ當該扶助料權者失權シタル後  
恩給法ニ規定スル順位ニ依リ之ヲ給  
ス

前項ニ規定スル者ト雖モ軍人死亡ノ當  
時ニ於テ前項ノ事由以外ノ事由ニ因リ  
扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者又ハ  
其ノ後ニ失權事由アリタル者ニハ扶助  
料ヲ給セズ

第一項ノ扶助料ニ付テハ昭和八年九月  
正後ノ同條第一項第二號乃至第四號及  
同條第二項ノ規定ニ依リ受クベキ扶助  
料年額ヨリ多キトキハ其ノ加給期間ヲ  
経過スル迄改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ  
規定ニ依ル

第七條 北海道廳森林監守ヨリ引續キ同  
廳森林主事ト爲リ恩給法施行後退職シ  
タル者ニハ其ノ在職年ニ森林監守ノ勤  
務年数ヲ通算シ昭和十三年四月一日  
ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改  
定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族  
ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ恩給法第五條ニ  
規定スル請求期間ハ昭和十三年四月一  
日ヨリ之ヲ起算ス

庶民金庫法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因  
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（小字ハ衆議院ノ修正ナリ）

庶民金庫法案

第一條 庶民金庫ハ主タル事務所ヲ東京  
市ニ置ク

庶民金庫ハ法人トス

第一章 總則

第二條 庶民金庫ハ庶民金融ノ圓滑ヲ圖  
ルコトヲ目的トス

第三條 事務所ノ所在地

第四條 資本金額及資產ニ關スル事項

第五條 役員及會議ニ關スル事項

第六條 業務及其ノ執行ニ關スル事項

第七條 庶民債券ノ發行ニ關スル事項

第八條 會計ニ關スル事項

第九條 公告ノ方法

第十條 定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更  
スルコトヲ得

第十一條 庶民金庫ニ理事長一人、理事  
三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十二條 理事長ハ庶民金庫ヲ代表シ其  
ノ業務ヲ總理ス

第十三條 理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ庶民金庫  
ヲ代表シ、理事長ヲ輔佐シテ庶民金庫  
ノ業務ヲ掌理シ、理事長事故アルトキ  
ハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノト  
キハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ庶民金庫ノ業務ヲ監査ス

第十四條 理事長、理事及監事ハ主務大  
臣之ヲ命ズ

庶民金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ  
其ノ職ヲ退キタル後五年間庶民金庫ノ理事  
長、理事及監事ト爲ルコトヲ得ス但シ主務  
大臣ニ于テ特ニ必要アリト認メタルトキハ  
此ノ限ニ在ラズ

第十五條 理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任  
期ハ二年トス

第十六條 理事長及理事ハ定款ノ定ムル

三十日以前ノ軍人ノ遺族ノ扶助料ニ關  
スル規定ニ依リ其ノ年額ヲ定ムルノ外  
恩給法ニ依リ之ヲ給ス

第一項ノ扶助料ニ付テハ恩給法第五條  
ニ規定スル請求期間ハ昭和十三年四月  
一日ヨリ之ヲ起算ス

第七條 北海道廳森林監守ヨリ引續キ同  
廳森林主事ト爲リ恩給法施行後退職シ  
タル者ニハ其ノ在職年ニ森林監守ノ勤  
務年数ヲ通算シ昭和十三年四月一日  
ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改  
定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族  
ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ恩給法第五條ニ  
規定スル請求期間ハ昭和十三年四月一  
日ヨリ之ヲ起算ス

第五條 政府ハ千萬圓ヲ庶民金庫ニ出資  
スベシ

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ  
爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ  
交付價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六條 庶民金庫ハ定款ヲ以テ左ノ事項  
ヲ規定スベシ

二 目的

三 事務所ノ所在地

四 資本金額及資產ニ關スル事項

五 役員及會議ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 庶民債券ノ發行ニ關スル事項

八 會計ニ關スル事項

九 公告ノ方法

第十條 定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更  
スルコトヲ得

第十一條 庶民金庫ニ理事長一人、理事  
三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十二條 理事長ハ庶民金庫ヲ代表シ其  
ノ業務ヲ總理ス

第十三條 理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ庶民金庫  
ヲ代表シ、理事長ヲ輔佐シテ庶民金庫  
ノ業務ヲ掌理シ、理事長事故アルトキ  
ハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノト  
キハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ庶民金庫ノ業務ヲ監査ス

第十四條 理事長、理事及監事ハ主務大  
臣之ヲ命ズ

庶民金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ  
其ノ職ヲ退キタル後五年間庶民金庫ノ理事  
長、理事及監事ト爲ルコトヲ得ス但シ主務  
大臣ニ于テ特ニ必要アリト認メタルトキハ  
此ノ限ニ在ラズ

第十五條 理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任  
期ハ二年トス

第十六條 理事長及理事ハ定款ノ定ムル

前項ノ規定ニ依リ登記スペキ事項ハ登  
記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對  
抗スルコトヲ得ズ

第八條 庶民金庫ニハ所得稅及營業收益  
稅ヲ課セズ

北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズ  
ベキモノハ庶民金庫ノ事業ニ對シテハ  
地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ  
事情ニ基ニ務大臣及大藏大臣ノ認可  
ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 庶民金庫ニ付解散ヲ必要トスル  
事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ  
關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 庶民金庫ニ非ザル者ハ庶民金庫  
又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ  
得ズ

第十一條 庶民金庫ニ理事長一人、理事  
三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十二條 理事長ハ庶民金庫ヲ代表シ其  
ノ業務ヲ總理ス

第十三條 理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ庶民金庫  
ヲ代表シ、理事長ヲ輔佐シテ庶民金庫  
ノ業務ヲ掌理シ、理事長事故アルトキ  
ハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノト  
キハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ庶民金庫ノ業務ヲ監査ス

第十四條 理事長、理事及監事ハ主務大  
臣之ヲ命ズ

庶民金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ  
其ノ職ヲ退キタル後五年間庶民金庫ノ理事  
長、理事及監事ト爲ルコトヲ得ス但シ主務  
大臣ニ于テ特ニ必要アリト認メタルトキハ  
此ノ限ニ在ラズ

第十五條 理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任  
期ハ二年トス

第十六條 理事長及理事ハ定款ノ定ムル

所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ  
切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權  
限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得  
第十五條 理事長及理事ハ他ノ職業ニ從  
事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可  
ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第十六條 庶民金庫ニ評議員若干人ヲ置  
キ主務大臣之ヲ命ズ  
評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事  
項ニ付理事長ノ諸間ニ應ジ必要アルト  
キハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得  
評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年ト  
ス

## 第三章 業務

第十七條 庶民金庫ハ左ノ業務ヲ行フ  
一 割賦償還又ハ定期償還ノ方法ニ依  
ル小口貸付  
二 金融機關ニ對スル小口貸付資金ノ  
融通  
三 金融機關ノ爲ニスル小口貸付ノ損  
失補償  
四 庶民金庫ト前各號ノ取引ヲ爲ス者  
ノ預金ノ受入  
五 前各號ノ業務ニ附帶スル事業  
第十八條 庶民金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ  
外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得  
一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可  
ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコ  
ト  
二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又  
ハ郵便貯金ト爲スコト  
第三十九條 理事長及理事ニ於テハ庶民金庫  
ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢查  
第三十條 主務大臣ハ特ニ庶民金庫監  
理官ヲ置キ庶民金庫ノ業務ヲ監視セシ  
ム

第二十條 庶民債券ハ額面金額五十圓以  
上トシ無記名利札附トス但シ應募者又  
ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコト  
ヲ得  
第二十一條 庶民金庫ハ庶民債券借換ノ  
爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ庶民債  
券ヲ發行スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ庶民債券ヲ發行シタ  
ルトキハ發行後一月内ニ其ノ發行額面  
金額ニ相當スル舊庶民債券ヲ償還スペ  
シ  
第二十二條 政府ハ庶民債券ニ付額面金  
額現在高最高一億圓ヲ限リ其ノ元本ノ  
償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得  
政府方元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證  
シタル庶民債券ノ借換ノ爲前條ノ規定  
ニ依リ庶民債券ヲ發行スル場合ニ在リ  
テハ其ノ庶民債券分ニ付テハ前項ノ制  
限ヲ超ユルコトヲ得  
第二十三條 庶民債券ハ賣出ノ方法ヲ以  
テ之ヲ發行スルコトヲ得  
第二十四條 庶民金庫ニ於テ庶民債券ヲ  
發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可  
ヲ受ケベシ  
第二十五條 庶民債券ノ消滅時效ハ元金  
ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五  
年ヲ以テ完成ス

第二十六條 所得稅法、資本利子稅法及  
有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ  
關スル規定ハ庶民債券ニ之ヲ準用ス  
第二十七條 本章ニ規定スルモノヲ除ク  
ノ外庶民債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅  
令ヲ以テ之ヲ定ム  
第四章 庶民債券  
第十九條 庶民金庫ハ拂込資本金額ノ十  
倍ヲ限リ庶民債券ヲ發行スルコトヲ得  
但シ其ノ貸付金及所有ニ係ル有價證券  
ノ現在高ヲ超過スルコトヲ得ズ  
第二十八條 會計  
第五章 會計  
第六章 監督  
第三十二條 庶民金庫ハ主務大臣ノ認可  
ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲  
スコトヲ得ズ  
第三十三條 庶民金庫ハ毎事業年度ノ初  
ニ於テ貸付利率、融通利率及補償料ノ  
最高限度其ノ他貸付、融通及補償ニ關  
スル條件ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受ク  
ベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ  
第三十四條 主務大臣ハ庶民金庫ニ對シ  
業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシ  
メ、檢查ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル  
命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得  
第三十五條 主務大臣ハ特ニ庶民金庫監  
理官ヲ置キ庶民金庫ノ業務ヲ監視セシ  
ム  
第三十六條 庶民金庫監理官ハ何時ニテ  
モ庶民金庫ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢查  
スルコトヲ得  
庶民金庫監理官ハ必要アリト認ムルト  
キハ何時ニテモ庶民金庫ニ命ジテ業務  
及財產ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得  
庶民金庫監理官ハ庶民金庫ノ諸般ノ會  
議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
第三十七條 役員ガ法令、定款若ハ主務  
大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル  
行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ  
解任スルコトヲ得  
第七章 罰則  
第三十八條 左ノ場合ニ於テハ庶民金庫  
ノ理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千  
圓以下ノ過料ニ處ス  
第三十九條 庶民金庫ノ剩餘金ハ之ヲ配  
當セズ  
第二十九條 庶民金庫ノ剩餘金ハ之ヲ配  
當セズ  
第三十條 庶民金庫ハ設立ノ時及毎事業  
年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對照表  
及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ  
各事務所ニ備置クコトヲ要ス  
債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ  
掲グル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得  
第六章 監督  
第三十一條 庶民金庫ハ大藏大臣之ヲ監  
督ス  
第三十二條 庶民金庫ハ主務大臣ノ認可  
ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲  
スコトヲ得ズ  
第三十三條 庶民金庫ハ毎事業年度ノ初  
ニ於テ貸付利率、融通利率及補償料ノ  
最高限度其ノ他貸付、融通及補償ニ關  
スル條件ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受ク  
ベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ  
第三十四條 主務大臣ハ庶民金庫ニ對シ  
業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシ  
メ、檢查ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル  
命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得  
第三十五條 主務大臣ハ特ニ庶民金庫監  
理官ヲ置キ庶民金庫ノ業務ヲ監視セシ  
ム  
第三十六條 庶民金庫監理官ハ何時ニテ  
モ庶民金庫ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢查  
スルコトヲ得  
庶民金庫監理官ハ必要アリト認ムルト  
キハ何時ニテモ庶民金庫ニ命ジテ業務  
及財產ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得  
庶民金庫監理官ハ庶民金庫ノ諸般ノ會  
議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
第三十七條 役員ガ法令、定款若ハ主務  
大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル  
行爲ヲ爲シタルトキ  
テ其ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ  
第四十條 第十條ノ規定ニ違反シ庶民金  
庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者  
ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス  
第四十一條 非訟事件手續法第二百六條

乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

#### 附 則

第四十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ庶民金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十四條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十五條 定款ニ付主務大臣ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ノ拂込ヲ申請スベシ

第四十六條 政府ノ出資ノ拂込アリタルトキハ庶民金庫ハ之ニ因リテ成立ス此ノ場合ニ於テ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ庶民金庫理事長ニ引繼グベシ

第四十七條 政府ハ第五條ノ規定ニ依リ交付スル爲昭和十三年度ニ於テ額面千萬圓ヲ限リ三分半利附公債ヲ發行スルコトヲ得

第四十八條 第十條ノ規定ハ本法施行前テ商法第二百二十條ノ二但書ノ期間ニ付亦同ジ

第四十九條 登錄稅法第十九條第七號中「產業組合中央會」ノ下ニ「庶民金庫」ヲ、「產業組合法」ノ下ニ「庶民金庫法」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

第十五條 庶民金庫ノ業務ノ用ニ供スル不動產ニ關スル登記

第十五條 印紙稅法第五條中第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
六ノ二 庶民金庫ノ業務ニ關スル證書帳簿及庶民債券

無盡業法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

無盡業法中改正法律案

無盡業法中改正法律案

第四條中「三萬圓」ヲ「十萬圓」ニ、「一萬五千圓」ヲ「五萬圓」ニ改ム

前項第四號ノ規定ニ依ル貸付金額中既ニ拂込ミタル金額ヲ超過スル額ニ付テハ確實ナル擔保又ハ保證アルコトヲ要ス

第二十一條ノ一 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リテ爲スベキ催告ハ掛

金者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十一條ノ二 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ三 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ四 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ五 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ六 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ七 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ八 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ九 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ十 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ十一 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ十二 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ十三 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ十四 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ十五 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ十六 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

第二十一條ノ十七 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スト

コトヲ得

前項ノ場合ニ於テ無盡會社ガ前項ノ業務以外ニ無盡業ヲ營ミタルトキハ三千圓以

下ノ罰金ニ處ス

〔政府委員船田中君演壇ニ登ル〕

○政府委員(船田中君) 恩給金庫法案ニ付提案理由ヲ申上ゲマス、恩給ハ元來一身ニ專屬スペキモノニアリマシテ、之ニ依ツテ受給者及び其ノ家族ガ生活ノ資ニ供スペキ性質ノモノニアリマス、故ニ之ヲ他人ニ譲渡シ、又ハ擔保ニ供スルコトヲ法律ヲ以テ禁止シテ居ルノアリマスガ、受給者ハ現在ノ給與ニ依ツテハ、生活ノ餘裕ト云フヤウナモノヲ持ツ程度ニ至ツテ居リマセヌノデ、一朝不慮ノ災厄ニ遭遇シ、又疾病ニ罹ルト云ノヤウナ不時ノ失費ヲ必要トスル場合ニ於キマシテハ、已ムヲ得ズ之ヲ擔保ニ供シテ金融ヲ受ケルト云フ者モ少カラザル實情デアルノデアリマス、而シテ從來一般金融業者ノ行ヒツ、アル金融ノ方法ハ、金利ガ非常ニ高イノミナラズ、時ニハ恩給證書ハ金融業者間ヲ轉々シテ負債完了後ニ於テモ遂ニ其ノ所在スラ知ルコトガ出來ナイヤウナ場合モアリマシテ、其ノ弊害甚ダシク、何トカ恩給受給者ノ生活安定上、適當ナル方策ヲ講ゼラレタシトノ要望ガ少クナイノデアリマス、加之老幼者及廢疾者等、最モ其ノ救濟ヲ必要トスル者ハ金融ノ途ヲ杜絶サレテ居ル實情デアリマス、以上恩給金融ニ付申述ベマシタコトハ、多少ノ事情ヲ異ニ致シマスガ、勳章年金ニ付テモ同様デアリマシテ、折角殊勲者優遇ノ爲與ヘラレタル年金ガ、徒ニ金融業者ヲ利スルト云フ實例タル無盡契約ニ付テハ之ガ完了ニ至ル迄其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルシ種々適當ナル方策ヲ考究致シマシタ處、

政府自身積極的ニ金融機關ノ設立ヲ企圖シ從來ノ弊害ヲ除去スルヲ以テ最善ノ方策ト認メタノデアリマスガ、政府自ラ全部ノ資金ヲ支出シ融通ヲ行ヒマスコトハ、今日ノ財政状態其ノ他ヨリ見テ困難ナル事情モアリマスノデ、資金ノ一部ヲ政府負擔トシ、更ニ民間ノ資力ヲモ取入レ、政府ハ之ニ十分ナル保護監督ヲ加ヘテ、政府自ラスルト略、同様ノ效果ヲ收ムコトヲ目標トシ、茲ニ恩給金庫ナル一金融機關ヲ法律ヲ以テ特置シ、之ヲシテ公正妥當ナル條件ノ下ニ、恩給年金受給者ノ爲ニ金融ヲ行ハシメムトスルニ至ツタノデアリマス、恩給金庫ハ以上ノ目的ノ外、附帶業務トシテ受給者ノ福祉増進ニ貢獻スペキ事業ヲモ營ム豫定デアリマシテ、其ノ性質ハ公益的ノモノデゴザイマス、次ニ恩給法中改正法律案ニ付テ提案ノ理由ヲ申上ゲマス、先づ第一ハ只今申上ゲマシタ所ノ恩給金庫法案ニ關聯致シマシテ、恩給擔保禁止ノ原則ニ對シ、恩給金庫ノ爲例外ヲ認メムトスルノデアリマス、次ニ時局ニ鑑ミ傷痍軍人竝ニ戰死者、公務死者、增加恩給受給者等ノ遺族優遇ノ爲、增加恩給、傷病年金及遺族扶助料ヲ増額スルノ必要ヲ認メ、之ニ關スル規定ヲ改メムトスルノデアリマス、即チ增加恩給ニ付キマシテハ、大正十三年恩給法制定以來改正ヲ行ツテ居ラナインデアリマスガ、戰傷病者ノ實情ニ照シマスルト、尙幾分ノ増額ヲ必付トスルノデアリマス、特ニ症高キ者ニ付テハ、醫療介護等ニ相當ノ費用ヲ要シマスノデ、特ニ高症者ニ重ク優遇ノ實ヲ擧ゲムトスルモノニアリマス、而シテ增加恩給程度ニ達セザルモノニ給スル傷病年金等ニ付キマシテモ、出來得ル限り待遇上ノ均衡

得ル如ク改正致シマシテ、戰死者、公務  
死者遺族ニ付キマシテハ、最モ同情ニ値ス  
ルモノデアリマシテ、國家トシテ出來得ル  
限り優遇ノ實ヲ舉ゲルガ爲、從來ニ比シ大  
幅ノ扶助料額增加ヲ致ス積リデアリマス、  
即チ下ニ厚クスルノ主義ヲ以テ、現行ノ扶  
助料額ニ對シ、戰死者ニ付テハ八割乃至三  
割ノ増額ヲ行ヒ、更ニ實際ノ生活ニ即セシ  
ムル爲、遺族ノ員數ニ應ズル加給制度ヲ創  
設シ、更ニ又下ニ厚クスルノ趣旨ヲ以テ、  
改正扶助料額ノ四割五分以内ノ増給ヲ致ス  
コトニナツテ居リマス、又大正十二年ノ恩  
法施行前ニ、戰鬪又ハ之ニ準ズベキ公務ノ  
爲ニ傷痍ヲ受ケ、又ハ疾病ニ罹リ、之ガ爲  
ニ或ハ増加恩給ヲ受ケ、或ハ之ヲ受ケズシ  
テ死亡シタル軍人ハ相當數多イノデアリマ  
スガ、其ノ中或者ノ遺族ハ軍人死亡當時同  
一戸籍内ニアリナガラ、兵籍簿ニ載ツテ居ラ  
ナカツタト云フヤウナ特殊ノ事由ヲ以テ、其  
ノ當時ノ法律ニ依ツテハ扶助料ヲ受ケ得ラ  
レナカツタノデアリマス、是等ノ者ハ國家ノ  
爲ニ身ヲ犠牲ニシタモノノ遺族デアリマシ  
テ、誠ニ同情ニ値スルモノデアリマスカラ、  
之ヲ現行恩給法ニ於ケルト同様ニ待遇シ、  
之ニ扶助料ヲ給スルノ途ヲ開キタイト存ズ  
ルノデアリマス、尚大正七年以前ノ北海道  
ノ森林監守ハ現今恩給法ノ制定當時在職シ  
テ居ツタナラバ、恩給法上ノ待遇職員トシテ  
指定セラレ、恩給ノ特典ヲ受ケタデアリマ  
セウガ、形式上ノ理由ヨリ、當時之ニ恩給  
ヲ給スルノ資格ヲ認メナカツタノデアリマ  
ス、故ニ今回是等ノ者ニモ一定ノ條件ノ下  
ニ、待遇職員同様ノ待遇ヲ與ヘヨウト致ス  
ノデアリマス、以上ノ外滿洲國治外法權ノ  
撤廢其ノ他ノ事由ニ依リ、恩給法ノ規定整

理等ノ爲、數項ニ瓦リ恩給法中改正ヲ行ハ  
ムトスルノデゴザイマス、右兩案トモ衆議  
院ニ於テハ二三修正ヲ加ヘ議決セラレタノ  
デアリマスルガ、政府ハ右修正ニ對シ必ズ  
シモ全部同意致スモノデハアリマセヌ、詳  
細ハ委員會等ニ於テ御説明申上ゲルコトト  
致シマスガ、何卒御審議ノ上速カニ御協賛  
アラムコトヲ御願ヒ致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 太田大藏省政務  
次官

(政府委員太田正孝君演壇ニ登ル)

○政府委員(太田正孝君) 只今議題トナリ  
マシタ庶民金庫法案及無盡業法中改正法律  
案、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、先づ  
庶民金庫法案ニ付テ説明致シマス、我ガ國  
ノ庶民金融ノ現狀ヲ見マスルノニ、信用組  
合、無盡會社、質屋ナドノ所謂庶民金融機  
關ガゴザイマシテ、ソレノ獨自ノ活動ヲ  
致シテ居リマスルガ、普通銀行、貯蓄銀行  
及特別銀行ナドニ於キマシテモ、相當此ノ  
方面ニ貢獻ヲ致シテ參ッテ居ルノデゴザイ  
マス、殊ニ政府ト致シマシテハ、過般損失  
補償制度ノ擴張ヲ行ヒマシテ、是等既設金  
融機關ノ活動ニ積極性ヲ與ヘムコトヲ期待  
シテ居ルノデゴザイマス、ケレドモ是ダケ  
ヲ以テ致シマシテハ、庶民階級ニ對スル金  
融、殊ニ小口無擔保金融ノ疏通ニ付キマシ  
テ、尙不十分デアルト思ハレルノデゴザイ  
マス、申ス迄モナク所謂庶民階級ト申シマ  
ス者ハ、我ガ國民中ノ大部分ヲ占メテ居ル  
ノデゴザイマシテ、此ノ階級ニ對スル金融  
ノ圓滑ヲ圖リ、其ノ生活ノ安定ニ資シマス  
コトハ、最モ肝要ノコトデアルト信ズルノ  
デゴザイマス、茲ニ於キマシテ今回政府ハ  
本法案ニ依ツテ一千萬圓ノ政府出資ヲ致

シ、純非營利ノ庶民金庫ヲ創設致シマシテ、是迄アル機關ヲ以テシテハ十分ナル融資ニ惠マレナカッタ中小産業者及勤勞所得者ナドニ對シマシテ、小口信用貸付ノ疏通圓滑ヲ圖リ、以テ國民生活ノ安定ニ資セムトスル次第デゴザイマス、以上ハ政府カラ提出致シマシタ原案ノ概略デゴザイマス、此ノ原案ニ於キマシテハ庶民金庫ノ役員ノ選任範圍ニ付テ、別ニ決定シテ居ラナカッタノデゴザイマスガ、衆議院ニ於キマシテハ之ニ對シ修正ヲ加ヘマシテ、原則トシテ當該監督官廳ノ官吏デアッタ者ハ、退職後五年間庶民金庫ノ理事長トカ、理事トカ監事タルコトヲ得ザル旨ノ規定ヲ設ケラレタノデゴザイマス、此ノ政府原案ニ對スル衆議院ノ修正ニ付キマシテハ、政府トシテハ同意致シテ居ラナイノデゴザイマス、次ニ無盡業法中改正法律案ニ付テ御説明申上ゲマス、無盡業法ハ御承知ノ通り昭和六年ニ全面的改正ヲ行ツタノデゴザイマス、ケレドモ其ノ後無盡業ハ段々發展致シマシテ、現在無盡會社ノ數ハ二百四十七、其ノ給付契約高ハ十六億圓ヲ超ユルノ情況トナッタノデゴザイマス、ケレドモ斯様ナ發展ニ伴ヒマシテ、一層其ノ信用ノ向上ヲ圖リ、且益、其ノ機能ヲ發揮セシマス爲ニ、無盡會社ノ最低資本金、給付金限度、貸付ノ制限規定ナドニ改正ヲ加ヘルコトヲ適當ト認メマシタノデ、茲ニ無盡業法中改正法律案ヲ提出シタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上、政府原案ノ通り協賛ヲ與ヘラレムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議  
ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致セマス

(丸龜書記官朗讀)

恩給金庫法案外三件特別委員

侯爵大隈 信常君	侯爵井上 三郎君
伯爵山田 英夫君	子爵大河内輝耕君
子爵裏松 友光君	子爵大岡 忠綱君
宇佐美勝夫君	三井清一郎君
内田 重成君	男爵前田 勇君
男爵柴山 昌生君	男爵渡邊 修二君
丸山 鶴吉君	深井 英五君
濱口儀兵衛君	野村 德七君
米原 章三君	岩崎 清行君

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第五、樺太地方鐵道補助法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、大谷拓務大臣

樺太地方鐵道補助法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十日

衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長伯爵松平頼壽殿
樺太地方鐵道補助法中改正法律案
第一條 政府ハ樺太ニ於テ公衆ノ用ニ供スル爲經營スル地方鐵道ニ對シ該鐵道

營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ限リ補助金

附 則

ヲ交付スルコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ五

年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ

得

第二條 前條ノ補助金ハ左ノ各號ニ依ル

金額ヲ限度トス

一 前條第一項ノ期間中ハ每營業年度  
ニ於ケル建設費ニ對シ年六分ノ割合  
ニ相當スル金額但シ毎營業年度ニ於  
ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割  
合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其  
ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス

二 前條第二項ノ期間中ハ每營業年度  
ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合  
ニ相當スル金額但シ毎營業年度ニ於  
ケル益金カ建設費ニ對シ年一分五厘  
ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキ  
ハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控

除ス

第三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ

一經營者ノ經營スル鐵道ヲ數區ニ分チ  
各區ニ付前二條ノ規定ニ準シ補助ヲ爲  
スコトヲ得

第四條 前二條ノ規定ニ依ル建設費及益

金額ニ依ル

第七條中「補助ヲ受クル會社」ヲ「補助ヲ  
受クル鐵道ノ管理者」ニ改ム

第八條ヲ削リ第九條ヲ第八條トス

第十條中「前二條」ヲ「前條」ニ改メ同條ヲ  
第九條トス

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行

ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵

道ニ對スル補助ニ付テハ會社設立又ハ資

本增加ノ登記ノ日ヨリ十五年ノ期間滿了

ノ日ヲ含ム營業年度ノ末日迄ハ改正規定

ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對

スル補助ノ期間ニ付テハ該鐵道ノ建設費

ニ充テタル資金ニ對シ初メテ補助ヲ爲シ

タル日ヲ以テ第一條第一項ノ營業開始ノ

日ト看做ス

(國務大臣大谷尊由君演壇ニ登ル)

○國務大臣(大谷尊由君)只今議題トナリ

マシク樺太地方鐵道補助法中改正法律案提

出ノ理由ヲ簡單ニ御説明ヲ申上ダマス、樺

太ニ於ケル補助地方鐵道中、近ク補助期間

ノ滿了スルモノガアルノデアリマスガ、其

ノ業績豫期ノ如ク舉ラズ、仍テ當分政府ヨ

リ相當ノ補助ヲシナケレバ經營困難ノ狀態

デアリマス、而シテ是等ノ鐵道ハ、樺太開

發上重要ナ使命ヲ有シ、殊ニ樺太鐵道ノ如

キハ國有鐵道ノ代線タル意義ヲ持ツ重要幹

線デアリマスノデ、朝鮮及臺灣ノ例ニ倣ヒ

マシテ、現在ノ補助期間十五年ヲ必要ニ應

ジ、更ニ五年ヲ限リ伸長シ得ルコトト致シ

タノデアリマス、尙補助方法ニ付キマシテ

モ、現下經濟界ノ趨勢ニ鑑ミマシテ、此ノ

例ニ倣ヒ、之ヲ改正スルコト致シマシテ

ノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラ

ムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御質疑ガナケレ

バ本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス  
(丸龜書記官朗讀)

權太地方鐵道補助法中改正法律案特別委

員

子爵戸田 忠庸君

子爵高倉 篤麿君

佐藤 三吉君

坂西利八郎君

永田秀次郎君

磯貝 浩君

山隈 康君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第六、石油

資源開發法案、政府提出、衆議院送付、第

一讀會、吉野商工大臣

石油資源開發法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

石油資源開發法案

石油資源開發法

第一條 石油ヲ目的トスル鑛業權者(以

下石油鑛業者ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所

ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ届出

ヅベシ之ヲ變更セントルトキ亦同ジ

政府鑛利保護上必要アリト認ムルトキ

ハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫

算ノ範圍内ニ於テ石油鑛業者ニ對シ試

掘助成金ヲ交付スルコトヲ得

第三條 政府ハ前條ノ試掘助成金ニ依ル

試掘ノ結果開發セラレタル油田ヨリ採

油ヲ爲ス者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依

ハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ

リ採油開始後五年間毎年採油價額ノ百  
分ノ二以内ニ相當スル金額ヲ納付セシ  
ムルコトヲ得

前項ノ油田ノ地域及深度ハ政府之ヲ指  
定ス

第四條 前條第二項ノ指定ニ不服アル者  
ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第五條 詐欺ノ行爲ヲ以テ第二條ノ試掘  
助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ  
其ノ金額ヲ返還セシム

第六條 第三條ノ規定ニ依ル納付金及前  
條ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分  
ノ例ニ依リ返還セシム

第七條 政府石油資源ノ開發促進上必要  
アリト認ムルトキハ石油鑛業者ニ對シ  
其ノ鑛區ノ開發方法其ノ他必要ナル事  
項ニ付他ノ石油鑛業者ト協議ヲ爲スベ  
キコトヲ命ズルコトヲ得

石油鑛業者ハ石油鑛業者ノ鑛區ト隣

接スル自己ノ鑛區ノ境界線ヨリ五十メ

ートル以内ノ地域ニ於テ採掘ヲ爲サン

トスルトキハ鑛利保護上必要ナル事項  
ニ付豫メ隣接鑛區ノ石油鑛業者ト協議

ヲ爲スベシ

政府石油資源ノ開發促進上又ハ鑛利保

護上必要アリト認ムルトキハ前二項ノ

協議ニ依ル決定ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ協議ヲ爲サズ若ハ

爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキ

ハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ

爲スコトヲ得

第八條 政府石油資源ノ開發促進上必要

アリト認ムルトキハ石油鑛業者ニ對シ  
試掘又ハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズ  
ルコトヲ得

政府前項ノ規定ニ依リ試掘助成金ヲ交付ス

トキハ第二條ノ試掘助成金ヲ交付ス

第九條 政府軍事上必要アリト認ムルト  
キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ石油鑛業者  
ニ對シ採油ノ制限又ハ増加ニ關シ必要  
ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規  
定ニ依ル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補  
償ス

第十條 政府ハ石油鑛業者ニ對シ其ノ業  
務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ  
又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲  
スコトヲ得

第十一條 左ノ各號ノ一一該當スル者ハ  
五千圓以下ノ罰金ニ處ス

ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第二項ノ規定ニ依ル協議ヲ  
爲サズ又ハ協議調ハザル以前ニ採掘  
ヲ爲シタル者

二 第七條ノ決定ニ基カズ又ハ同條第  
三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ決定  
ヲ變更セズシテ試掘又ハ採掘ヲ爲シ  
タル者

三 第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ  
違反シタル者

四 第九條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ  
違反シタル者

第十二條 左ノ各號ノ一一該當スル者ハ  
二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條第一項ノ規定ニ違反シ事業  
計畫ノ届出ヲ怠リ又ハ届出デタル事  
業計畫ヲ實施セザル者

二 第一條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ  
違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ  
實施シタル者

三 第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ  
怠リ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ  
五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ  
拒ミ、妨ガ又ハ忌避シタル者

二 第十條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ  
ハ處分ニ違反シタル者

三 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

四 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

五 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

六 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

七 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

八 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

九 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十一 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十二 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十三 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十四 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十五 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十六 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十七 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十八 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

十九 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十一 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十二 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十三 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十四 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十五 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十六 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十七 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十八 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

二十九 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又  
ハ處分ニ違反シタル者

イマスノデ、之ガ自給ノ確保ヲ圖リ、確乎  
タル石油國策ヲ樹立致シマスコトハ、現下  
ノ情勢ニ鑑ミマシテ最モ緊要ナル要務デア  
ルト信ズルノデアリマス、御承知ノ通り曩  
ニ議會ノ御協贊ヲ得マシテ、帝國燃料興業  
株式會社及人造石油製造事業法、此ノ二  
ツノ法律ガ制定致サレマシテ、人造石油事  
業ノ確立ニ依リマシテ、石油自給ノ增加ヲ

圖ルコトナツタノデアリマスガ、尙前議會  
ニ於ケル貴衆兩院ノ御要望ニモ鑑ミマシテ、  
此ノ際更ニ國內ノ天然石油資源ノ開發ニ付  
キマシテモ一層ノ力ヲ致シ、兩々相俟テ石  
油供給ノ確保ヲ圖リタイト存ズルノデアリ  
マス、今日迄ノ地質調査ノ結果カラ見マシ  
テモ、試掘ヲ要スト認メラレマスル地域  
ハ相當多イノデアリマス、從テ斯カル地域  
ニ於キマシテハ、取急ギ試掘ヲ遂行セシメ  
質ノ精査ヲ加ヘマシタナラバ、是等ノ地域  
ニ於ケル地質ノ價値ハ一層判然スルモノト  
考ヘラレルノデアリマス、從テ斯カル地域  
ニ於キマシテハ、取急ギ試掘ヲ遂行セシメ  
マスコトガ、天然石油資源ノ開發上最モ肝  
要ノコトト存ズルノデアリマス、石油資源  
ノ開發ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテ  
モ昭和二年以來獎勵金ノ交付ニ依リマシテ  
ガ、右ノ趣旨ヲ達成致シマスルガ爲ニハ、  
獎勵金ノ増額ヲ致シマスルト共ニ、更ニ合  
理的ニ、經濟的ニ開發ヲ圖ルコトノ方法ヲ  
講ズル必需要ガアルノデアリマス、以上が今  
回石油資源開發法案ヲ提出致シマシタ理由  
ノ大要デゴザイマス、何卒十分御審議ノ上  
御協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス  
○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
ル石油資源開發法案ハ、重要鑛物增產法案案  
テ居リマスル石油資源開發法案ニ付キマシ  
テ、其ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲタイト  
○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
ル石油資源開發法案ハ、重要鑛物增產法案案  
産業上、國防上極メテ重要ナル資源デゴザ  
外一件ト關聯スル法案デアリマスルガ故ニ、

同委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致  
シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議

ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第七、社會  
事業法案、日程第八、商店法案、日程第九、  
簡易生命保險法中改正法律案、政府提出、  
衆議院送付、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括  
シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセ  
ヌカ

〔異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス、木戸厚生大臣

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス

四 授産場、宿泊所其ノ他經濟保護ヲ爲ス事業

五 其ノ他勅令ヲ以テ指定スル事業  
六 前各號ニ掲タル事業ニ關スル指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業

第二條 社會事業ヲ經營スル者其ノ事業

ヲ開始シタルトキ又ハ之ヲ廢止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル委託アリタル場合ニ

第三條 地方長官ハ社會事業ヲ經營スル者ニ對シ保護ヲ要スル者ノ收容ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル委託アリタル場合ニ

於テ社會事業ヲ經營スル者ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第四條 地方長官ハ社會事業ノ施設ニ收容セラレタル者ノ處遇上必要アリト認ムルトキハ社會事業ヲ經營スル者ニ對シ其ノ施設ニ屬スル建物又ハ設備ノ改良ヲ命ズルコトヲ得

社會事業ヲ經營スル者前項ノ規定ニ依ル處分ニ從ハザルトキハ地方長官ハ當該建物又ハ設備ノ使用ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル處分ハ豫メ戒告スルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 社會事業ヲ經營シ又ハ經營セントル者其ノ事業ノ經營ニ必要ナル資金ヲ得ル爲寄附金ヲ募集セントスルトキハ事業經營地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ事業經營地ガ二以上ノ道府縣ノ區域ニ涉ルトキハ主務大臣

ノ許可ヲ受クベシ  
前二項ノ規定ニ依ル許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ寄附金ヲ募集シタル者（當該事業ノ承繼者ヲ含ム）ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ收支ヲ寄附金募集ノ許可ヲ受ケタル官廳ニ報告スベシ

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ寄附金ヲ募集シタル者（當該事業ノ承繼者ヲ含ム）ハ其ノ寄附金又ハ之ニ依リ得タル財產ノ處分ニ付寄附金募集ノ許可ヲ受ケタル官廳ノ許可ヲ受クベシ

第六條 地方長官ハ監督上必要アリト認ムルトキハ社會事業ヲ經營スル者ニ對シ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ノ提出ヲ命ジ、實地ニ就キ業務若ハ會計ノ狀況ヲ調査シ又ハ事業ノ經營ニ關シ指示ヲ爲スコトヲ得

第七條 社會事業ヲ經營スル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

一 事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルトキ又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

二 補助ノ條件ニ違反シタルトキ又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

三 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令

本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

四 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令

本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

五 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令

本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

六 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令

本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

七 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令

本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

トキハ道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ其ノ社會事業ノ用ニ供スル土地又ハ建築ニ對シテ租稅其ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 政府ハ社會事業ヲ經營スル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ補助スルコトヲ得

第十二條 社會事業ヲ經營スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ規定ニ依ル補助ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

第十三條 主務大臣地方ノ情況ニ依リ特別ノ必要アリト認ムルトキハ中央社會事業委員會ノ意見ヲ聞キ道府縣又ハ命令ヲ以テ指定スル市ニ對シ社會事業ノ經營ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ寄附金ヲ募集シタル者

二 第五條第三項ノ規定ニ依ル許可ノ條件ニ違反シテ寄附金ヲ募集シタル者

三 第五條第五項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ寄附金又ハ之ニ依リ得タ

四 第七條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シテ社會事業ヲ經營シタル者

第十五條 第五條第四項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 社會事業ヲ經營シ又ハ經營セントスル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十七條 本法ノ罰則ハ社會事業ヲ經營シ又ハ經營セントスル者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムハ本法施行ノ日ヨリ三月以内ニ第二條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベシ

第五條ノ規定ハ社會事業ヲ經營シ又ハ經營セントスル者ニシテ本法施行ノ際現ニ寄附金募集ニ付行政官廳ノ許可ヲ受ケ募集中ノモノニ對シテハ之ヲ適用セズ

本法施行ノ際現ニ社會事業ヲ經營スル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月以内ニ第二條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベシ

第五條ノ規定ハ社會事業ヲ經營シ又ハ經營セントスル者ニシテ本法施行ノ際現ニ寄附金募集ニ付行政官廳ノ許可ヲ受ケ募集中ノモノニ對シテハ之ヲ適用セズ

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

商店法案

衆議院議長 小山 松壽

昭和十三年三月十日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

商店法案

第一條 本法ハ市及主務大臣ノ指定スル

町村(町村ニ準ズベキモノヲ含ム)ニ於テ物品販賣業又ヘ理容業ヲ營ム店舗ニ之ヲ適用ス

前項ノ物品販賣業及理容業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 店主ハ本法ニ定ムル閉店時刻以後顧客ニ對シ前條ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ但シ閉店時刻前ヨリ引續キ店舗ニ在ル顧客ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

店主ハ閉店時刻以後ト雖モ負傷、疾病、災害其ノ他緊急ノ事由ヲ提示セル顧客ニ對シ其ノ必要ニ應ズル物品ヲ販賣スルコトヲ得

第三條 閉店時刻ハ午後十時トス

行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地域ヲ限り前項ノ時刻ヲ午後十一時迄繰延ブルコトヲ得

第四條 業務ノ繁忙ナル時期ニ付行政官廳必要アリト認ムルトキハ期間又ヘ地域ヲ限り一年ヲ通ジ六十日以内前二條ノ規定ヲ適用セズ又ヘ前條ノ時刻ヲ繰延ブルコトヲ得

前項ノ外行政官廳臨時必要アリト認ムルトキハ期間又ヘ地域ヲ限り前二條ノ規定ヲ適用セズ又ヘ前條ノ時刻ヲ繰延ブルコトヲ得

第五條 店主ハ使用人ニ毎月少クトモ一回ノ休日ヲ與フベシ

第六條 左ニ掲タル店舗ニシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ休日ヲ一回ト爲スコトヲ得

及第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

一 興行場、觀覽場、遊技場其ノ他之ニ類スル場所ニ於ケル店舗

二 展覽會場、共進會場、博覽會場其ノ他之ニ類スル場所ニ於ケル店舗

第十條 天災事變ノ爲又ヘ事變ノ處アル

三 停車場又ヘ船舶發着所ニ於ケル店舗

四 其ノ他主務大臣ノ指定スル場所ニ於ケル店舗

前項第二號ノ店舗ニシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ前條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第七條 常時五十人以上ノ使用者ヲ使用スル店舗ニ在リテハ店主ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ズ

前項ノ店舗ニ在リテハ店主ハ十六歳未滿ノ者又ヘ女子ノ就業時間ガ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ間ヲ就業時間中ニ於テ之ニ與フベシ

業務ノ繁忙ナル時期ニ於テハ店主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ一年ヲ通ジ六十日以内第一項ノ就業時間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ外臨時必要アル場合ニ於テハ店主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ第一項ノ就業時間ヲ延長スルコトヲ得

第八條 前條第一項ノ店舗ニ在リテハ店主ハ十六歳未滿ノ者及女子ニ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ與フベシ

業務ノ繁忙ナル時期其ノ他臨時必要アル場合ニ於テ店主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ休日ヲ一回ト爲スコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ店舗又ヘ其ノ附屬建設物ニ於ケル使人ノ危害ノ防止又ヘ衛生ニ關シ必要ナル事項ヲ店主ニ命ズルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ店舗ニ代ル者第二條第一項、第五條、第七條第一項第二項又ヘ第八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五百圓以下ノ罰金又ヘ科料ニ處ス

為必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ期間又ヘ地域ヲ限り本法ノ全部又ヘ一部ヲ適用セザルコトヲ得

第十一條 行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ店舗又ヘ其ノ附屬建設物ニ臨檢セシムルコトヲ得

但シ使用者以外ノ者ノ居室ハ此ノ限ニ在ラズ

當該官吏前項ノ規定ニ依リ臨檢スル場合ハ其ノ證票ヲ携帶スベシ

第十二條 店主ハ店舗ノ管理ニ付一切ノ権限ヲ有スル店舗管理人ヲ選任スルコトヲ得

店主本法施行地内ニ居住セザルトキハ店舗管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

店舗管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ但シ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 前條ノ店舗管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ハ營利ヲ目的トセザル物品販賣又ハ理容ノ事業ヲ爲ス店舗ニ之ヲ準用ス但シ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ付テハ店舗管理人ニ關スル規定及罰則ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 本法ハ汽車、汽船其ノ他ノ交通工具内ニ於ケル店舗及露店ニ之ヲ適用セズ

第十五條 本法ハ汽船其ノ他ノ交

易機關内ニ於ケル店舗及露店ニ之ヲ適用セズ

第十六條 店主又ヘ前條ノ規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ

簡易生命保險法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

第十五條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏

簡易生命保險法中左ノ通改正ス

第四條中「四百五十圓」ヲ「七百圓」ニ改ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣侯爵木戸幸一君演壇ニ登ル)

○國務大臣(侯爵木戸幸一君) 只今議題ト

ナリマシタ三法案中ノ先づ社會事業法案ニ

付テ提案ノ理由ヲ御説明致シマス、現下時

局ノ推移ニ伴テ生ズルコトノアルベキ各

種ノ社會問題ニ對シテ、之ガ對策ノ必要ナ

ルハ想像スルニ難カラヌノデアリマス、仍テ

政府ニ於テハ戰時戰後ニ於ケル社會施設ヲ

整備スルノ特ニ緊要ナルヲ思ヒマシテ、之

ガ爲一面社會政策ノ擴充ニ努ムルト共ニ、

他面公私社會事業ノ發展ヲ圖ルコトヲ期シ

テ居ルノデアリマス、御承知ノ如ク社會事

業ノ施設ハ、近時漸々增加發達ノ趨勢ニア

リマシテ、其ノ成績モ亦比年向上ノ跡ヲ示

シ、其ノ國民生活ニ及ス效果モ極メテ重視

店ノ營業時間ハ概シテ冗長、不規律デアリ

マスノミナラズ、休日制ノ如キモ未ダ一般

ニハ普及シテ居ナイ狀態デアリマス、斯カ

ラレマシタ次第デアリマスルガ、其ノ後十

數年間ハ一回ノ改正モ行ハレテ居ナイノデ

マス、然ルニ從來我國ニ於ケル勞働者ノ

保護ニ關スル法律ト致シマシテハ、工場

法トカ、礦業法トカ、主トシテ工場、礦

山等ニ働く者ニ限ラレテ居リマシテ、商店ニ働く者ニ限ラレテ居リマシテハ、何ダ何

テモ、地方團體ニ於テモ、年々相當ノ獎勵

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

救護施設、少年教護院、職業紹介所、公益

質屋等、特別ニ法律ノ定メアルモノヲ除ク

ノ外、未ダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラ

ナカツタノデアリマス、從ツテ一般ノ社會事

業ニ付テモ、一層積極的ニ其ノ振興發達ヲ

期スル爲ニ、之ガ助成及監督ノ方法ヲ制度

化スルコトノ必要ナルコトハ、政府ノ夙ニ

痛感シタル所ナルノミナラズ、關係方面カ

ラモ屢々、其ノ要望ガアツタノデアリマス、即チ

政府ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ、又前段申

上ゲマシタ如キ時勢ノ要求ニ察シマシテ、

金ヲ交付シテ、其ノ發達ヲ圖リ來ツタノデア

リマス、併シナガラ其ノ助成監督ノ方法ハ、

其ノ都度其ノ筋ニ建議又ハ請願ヲ致シテ居ルノデアリマス、現内閣ガ厚生省ノ誕生ト共ニ、此ノ社會事業法案ヲ御提出下サイマシタコトニ付キマシテハ、全國ノ社會事業家ノ中ニハ一種ノ失望ニ陥リ、又不平不満ヲ懷ク者ガ少クナインデアリマス、ソレハ社會事業家ガ多年要望致シマシタモノハ、社會事業ヲドウカシテ助成發達スルヤウニ資スル法案ヲ要望ヲ致シテ居ツタノデアリマスガ、其ノ要望ニ應ヘテ今回御提案ニナリマシタ此ノ社會事業法案ヲ検討ヲ致シテ見マスルト、實ハ殆ド内容ハ社會事業ノ取締法案デアリマシテ、極メテ助成ノ點ニ於テハ菲薄ナモノガアルノデアリマス、ソレデアリマスカラ事業家カラ申シマスルト、〔パン〕ヲ與ヘヨト叫ンデ、實ハ右ヲ興ヘラレタヤウナ感想ヲ懷イ居ル者ノ少クナインモ無理モナイコトデアリマス、本法案ハ十七箇條カラ成ツテ居ルノデアリマスケレドモ、社會事業ノ助成ト云フ問題ニ關シマシテハ、只今御説明ニモアリマシタ如ク、第十一條ニ補助ノ規定ガアリ、又第十條ニ免稅ノ規定ガアリマス、其ノ二箇條ヲ除イタ外ハ、大部分社會事業ヲ各方面カラ取締ヲスルト云フ規定ニナツテ居ルノデアリマス、勿論不正不當ナル社會事業ヲ十分ニ取締リ監督ヲ致シマシテ、昔ノヤウニソンナ不正不當ナル社會事業ハ存在ガ許サレマセヌノデアリマス、ソレデアリマスカラ今日ニ於キマシテ存在ヲ致シテ居リマス社會事業ト云フモ

ノハ、殆ド全部其ノ經營者ガ已ムニヒマレ  
ヌ尊ニ犠牲的精祌カラ、本當ニ縁ノ下ノ力  
持ノ氣持テ、父祖傳來其ノ事業ノ爲ニ誠心誠  
意ヲ捧ゲテ居ル者ガ多イノデアリマス、彼等  
ハ決シテ身分ノ榮達ヲ求メル譯デハアリマ  
セヌ、ソレヲ度外視シテ、社會ノ弱者ノ爲ニ  
本當ニ犠牲的ニ働イテ吳レテ居ラレルノデ  
アリマス、ソレデアリマスカラ社會事業ニ  
從事シテオイデニナル人達ハ、其ノ自尊心  
ト其ノ自負心ニ依ツテ僅カニ自己ノ満足ヲ  
得テ居ラレルノデアリマス、サウ云フ立場  
ニアル社會事業家カラ申シマスレバ、全身  
ヲ以テ善事ヲ爲シテ居ルノデアリマス、然  
ルニ法律ヲ出シテ、權力ヲ以テ是等ヲ取締  
ルト云フ態度ニ出ラレルモノダト斯ウ云フ  
考ヘマスカラ、此ノ法案ニ對シマシテ不平  
不滿ヲ持タレルコトニ對シマシテハ、誠ニ  
同情ニ堪ヘスト私共ハ思フノデアリマス、  
此ノ事ハ單リ社會事業家ガサウ感ゼラレテ  
居ルバカリデアリマセヌデ、一度此ノ社會  
事業法案ノ原案ガ社會ニ發表サレマスト、有  
力ナル新聞ノ中デモ、今度ハ愈、<sup>「インチキ」</sup>  
社會事業ヲ取締法案ガ議會ニ提出セラレル  
ノデアル、斯ウ論ジマシタ新聞紙モ少クナ  
イノデアル、ソレバカリデハアリマセヌ、  
社會ノ輿論ヲ代表シテ居リマスル大新聞ノ  
論說等ヲ見マシテモ、此ノ法案ヲ檢討致シ  
マシテ、如何ニモ取締ニ酷デアッテ助成ニ薄  
イ法案デアル、モウ少シ此ノ社會事業ノ助  
成、發達スル方面ニ力ヲ入レナケレバナラ  
ヌト云フ論說ヲ掲ゲラレタルモノハ、東西少  
クナクアルノデアリマス、ソコデ私ハ既ニ大  
ノ爲ニ渾身ノ努力ヲ捧ゲテ居ル全國社會事  
業家ノ名譽ノ爲ニ、今一應私ハ伺ツテ置キタ  
イノハ、本法案ヲ提出サレマシタ主眼、眼目  
ハ社會事業ノ取締ト云フ爲ノ法案デアルノ  
デアリマスカ、或ハ又社會事業ヲ此ノ上トモ  
助成發展サスト云フコトヲ主眼トシテ提出  
セラレタノデアリマスカ、此ノ點ニ付テ明瞭  
ニ大臣カラノ御答ヲ戴キタイト思フノデア  
リマス、是ガ私ノ質問ヲ申上ゲマス第一點  
デアリマス、第二ノ點ハ此ノ事ニ關聯ヲ致ス  
ノデアリマスガ、一體社會事業家ハ弱イ立  
場ニアリマシテ、大方篤志家ノ寄附援助等  
ニ依リマシテ、懸命ニ其ノ使命ノ爲ニ奮闘致  
シテ居ルノデアリマスガ、極メテ地味デアリ  
マス、決シテ大聲疾呼ヲ致シテ天下ニ懇フ  
ルト云フヤウナコトノ風ハアリマセヌノ  
デ、孜々營々トシテ努力ヲ致シテ居ルノデ  
アリマスガ、サウ云フ此ノ社會事業ノ弱味  
ニ乘ジマシテ、サウ澤山トハ申シマセヌケ  
レドモ、之ヲ監督致シマス地方廳アタリニ  
於キマシテ、而モ長官ヤ部長等ノ所ニ於キ  
マシテハ、理解ガアリマシテモ極メテ下ノ  
屬僚、下僚ニ於キマシテ動モスルト少シバ  
カリノ感情ノ行違ヒカラ、不當ノ干渉壓迫  
ヲ加ヘテ居リマスヤウナ實例ハ乏シクナイ  
ノデアリマス、併シナガラ全ク地味ナ弱イ  
立場ニ居リマスノデ、大抵泣寝入ニナッテ居  
ルノデアリマス、今迄モサウ云フ事例ガ私  
共少クナク存ジテ居リマスノデアリマス  
ガ、此ノ法案ガ出ルコトニナリマスト、法  
案ノ各條ヲ一々細カニハ申シマセヌケレド  
モ、到ル所デ或ハ事業ノ設備ノ點ニ付テ、  
或ハ經營ノ方法ニ付テ、或ハ調查ヲ爲シ、  
帳簿ヲ検査シ、必要ナル指示ヲ爲ス等色々  
法律的ノ根據ガ與ヘラレルコトニナリマス  
ノデアリマス、今迄ノ法律ノ根據ガナクテ

モ、監督權ノ發動デ、稍スクノ如キ弊害  
ガ地方ニ於キマシテ屢々私共實見ヲ致シテ  
居ルノニ、此ノ法律ガ出マシテ法ノ根據ヲ  
以テ色々ノ干渉ヲ致スコトガ出來ルヤウニ  
ナリマスコトニ、私共ハ非常ナ危險ヲ感じ  
テ居ルノデアリマス、是ハソシナモノガ澤  
山アルトハ申シマセヌケレドモ、一ツ此ノ  
法律ガ出タラバ今度ハヤッテヤルゾト云々タ  
ヤウナコトヲ公言ヲシテ居ル屬僚ガアルコ  
トモ耳ニ致シニシタノデアリマス、ソレデ  
アリマスカラ此ノ法案ガ出マシタ後ニ、實  
ニ孜々營々トシテ努力シテ居ル社會事業家  
ニ、法規ヲ根據ニシテ無用或ハ不當ノ干渉  
壓迫ヲ加ヘル數ガ、段々ニ殖エテ來ルノデ  
ハナカラウカト云フコトガ非常ナ心配ニナ  
ルノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付キマシテハ  
大臣ニ於カセラレテハ、此ノ法案實施ノ曉  
ハ、今迄ヨリモ更ニ無用ノ干渉壓迫等ガ増  
加スルコトヲ防止スル爲ニ、何カ御考案ニ  
ナシテ居リマスカト云フ、此ノ點ヲ承リタイ  
ト思フノデアリマス、第三ノ點ハ補助ノコ  
トデアリマス、此ノ法案ノ中ニ於キマシテ、  
全國ノ社會事業家ガ歡迎シ喜ンデ居リマスニ  
コトハ、補助ヲ戴クコトニ法律ノ根據ガ出  
來マシタコトデアリマス、併シナガラ此ノ  
法案ノ取締規定ガ非常ニ嚴重デアリマスニ  
拘ラズ、此ノ補助ノ規定ニ至リマシテハ、  
第十一條ニ「政府ハ社會事業ヲ經營スル者  
ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ補助スルコトヲ  
得」ト此ノ一箇條ノ規定デアリマス、如何  
ニモ此ノ補助ノ規定ハ生温イ規定デアリマ  
シテ、是ナラバ補助スルコトモ出來ル、補  
助シナイコトモ出來ルト云フノデアリマシ  
テ、有ツテモ無クテモ宜イヤウナ規定デアリ  
マス、此ノ規定ガ斯ウナリマスニ付キマシ

テハ、諸般ノ御事情ノアリマスコトヘ私推察ヲ致スノデアリマスガ、只今御擧ニナリマシタ、或ハ少年教護法デアルトカ、或ハ其ノ他ノ公益事業デアル水道トカ、下水トカ、道路トカ、港灣トカ、皆國家ガ補助致シマスモノニ付キマシテハ、明確ニ歩合迄定メテ此ノ補助率ガ定ツテ居ルコトカラ見マシテモ、如何ニモ此ノ補助ノ規定ハ生温イ規定デアルノデアリマス、是ハ遺憾千萬ナコトデアリマスケレドモ、事情ヲ諒察致シテ居ルノデアリマス、一方先程大臣ノ御説明ニモアリマシタケレドモ、社會事情ノ變遷ニ連レマシテ、社會政策的ノ施設ヲ要スルコトハ愈、急アリマス、ソレデアリマスカラ官公設ノ社會事業施設ガ非常ナ勢デ増加ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、ソレデモ日本ノ社會事業ノ發達ハ、全ク私設社會事業カラ出發致シタモノデアリマシテ、現在我ガ國ノ社會事業施設ハ六千十二ノ施設ガアリマスガ、其ノ中モウ全ク民間私設ノ團體ニ於テ經營サレテ居ルモノガ三千四百八施設アルノデアリマス、大方三分ノ二ハ民間ノ私設ノ團體デアルノデアリマス、若シ是等ノ三千四百ノ民間私設團體ガナイト云フコトニナリマスレバ、總テは官公立アリマス、サウ云フ建前カラ考ヘマスレバ、私設ノ社會事業團體ハ國家又ハ公共團體ニ代ツテ、此ノ社會施設ヲ經營シテ居ルノダト申上ゲテモ過言デハナインデアリマス、サウンテ社會事業經營者ハ誠ニ愛ト涙トヲ以テ、全身全魂ヲ打込ンデ、自分ノ生命トシテ其ノ施設デハ及ビマセヌ、實ニ麗ハシイ所ガ

アルノデアリマシテ、誠ニ尊イ魂ノ糧迄此ノ私設ノ事業ニ依シテ與ヘルコトガ出来ルノデアリマス、斯ウ考へマスレバ此ノ私設ノ社會事業ニ對シテハ、政府ハ相當ノ補助ヲナサラナケレバナラナイコトハ申ス迄モアリマセヌ、先程大臣ノ御説明ニモアリマシタヤウニ、畏クモ皇室ニ於カセラレマシテモ、特ニ此ノ點ニハ御軽念遊バサレマシテ、誠ニ我ガ國ノ社會事業發達ノ爲ニ、多大ノ御下賜、御補助ヲ戴イテ居ルコトニ付キマシテハ、感激ヲ致シテ居ルノデアリマス、然ルニ此ノ法案ノ提出ニ伴ヒマシテ豫算ヲ拜見致シマスルト、其ノ補助額ト云フノハ僅カニ五十萬圓デアリマス、此ノ規定ニ依リマスト、全部ノ社會事業ヲ補助セラレル譯デモアリマセヌ、又私設ダケヲ補助スルト云フ規定デモアリマセヌガ、若シ繩シ此ノ五十萬圓ヲ、是等私設ノ三千四百幾團體ニ補助ヲシテ戴クト云フコトニナリマスレバ、平均シテ見マスト百五十圓ニモ足リナイン數字デアル、厚生大臣ハ果シテ此ノ補助額デ社會事業助成ノ完全ヲ期シ得ルト御考ニナツテ居リマセウカ、此ノ點ヲ承リタイト思フノデアリマス、社會事業法カラハ除外サレテ居ルノデアリマスルケレドモ、司法省ノ所管ニナツテ居リマス司法保護事業ト云フノガアリマス、釋放者ノ保護事業デアリマスガ、是ハ司法省ノ豫算ヲ見マスト、此ノ補助費ガ十八萬三千五百七十五圓計上シテアリマス、又社會事業デハアリマセヌケレドモ、一種ノ公ノ施設デハアリマスガ、陸軍省豫算ヲ見マスト、帝國在郷軍人會ノ補助費ガ六十萬圓計上サレテ居リマス、決シテ是等ノ司法保護事業ノ補助ヤ、帝國在郷軍人會ノ補助ノ額ガ多過ギル

トハ申シマセヌ、必要ナル公益の施設ニアリマスカラ、益々補助ガ殖エテ來ルコトヲ私共希望致スノデアリマスガ、斯ウ云フモノニ比ベテ見マシテモ、六千餘ノ社會事業施設ニ對シテ僅々五十萬圓ノ補助額ヲ計上シタノデハ、是ハ誠ニ權衡ノ取レナイコト餘リニ稀薄デアツテ、是デ社會事業ノ助成ヲスルノデアルト、或ハ發達ヲ期スルノデアルト申サレタノデハ、如何ニモ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ賣ルト評セラレテモ仕方ガナイト思フノデアリマス、本年ハ已ムヲ得ナイコトデアリマスケレドモ、厚生大臣ハ來年度ニ於キマシテハ此ノ助成ヲ、此ノ法案ノ實質内容ニ適合スルヤウニ増額ヲセラレル御意思ガアルカナイカ、此ノ點モ併セテ承リタイト思フノデアリマス、大藏省ノ政府委員モ御列席デアリマスカラ、屹度内務省ハコントコトデ御満足ニナツテ居ルト思ハヌノデアリマスカラ、來年度カラ更ニ一段ト増額ノ計上ヲサレルト思ヒマスガ、大藏當局ニ於カセラレマシテモ此ノ事情ヲ御聽キ下サルナラバ、必ず是デハ餘り輕少ニ過ギルコトヲ自覺下サルト思フノデアリマス、此ノ點ニ關シマシテ大藏當局ノ御意見ヲ併セテ承ルコトガ出來レバ仕合セト思フノデアリマス、第四ハ補助ノコトハサウデアリマスガ、モウ少シ一步ヲ進メテ社會事業進展ノ爲ニ御考ヲ願ハナケレバナラヌ、ソレニハ社會事業資金法ノヤウナモノヲ制定シテ貰ヒタikt云フ問題デアリマス、官公設ノ社會施設ノ外ニ、先程モ申上ゲマシタヤウナ特別ノ存在ノ意義ヲ持ツテ居ル私設社會事業ガ益々スルノデアリマスカラ、是等ノ資金ヲ豊富ニスル爲ニ特ニ社會事業資金法ヲ制定シテ

云フ風ノコトガ、誠ニ必要ナルコト思フ  
ノデアリマスガ、政府ハ果シテ其ノ御意向  
ガアルカドウカ、外國ニ於キマシテハ競馬  
法ノ益金ヲ社會事業ノ資金ニスルトカ、色  
色ノ制度ヲ立テ居ル國モ澤山アリマス、  
我ガ國デ私共ハ色々研究致シマシタコトニ  
依リマシテモ、主トシテ庶民階級ガ掛ケル  
簡易保險ガ到頭流レテシマッテ、受取人ノナ  
イト云フヤウナコトノ爲ニ、或ハ郵便貯金ガ  
結局受取人ガ不明ニナツク爲ニ、國庫ノ收入  
二期シテ居ルト云フノガ年々歲々相當ノ  
額ガアルノデアリマス、斯ウ云フ金額ハ多  
クハ庶民階級ガ營々働くイタ結果、或ハ簡  
易保險ニ掛け、郵便貯金ニシタモノガ、其  
ノ後ノ事故デ受取人ガ不明ニナリ、一定ノ  
年限ヲ經テ國庫ノ收入ニナツテ居ルノデ、  
庶民階級カラ出タノデアルカラ、再ビ之ヲ  
憐レナ庶民階級ニ費スト云フコトノ爲ニ、  
サウ云フヤウナモノヲ特ニ社會事業資金ニ  
組入レルト云フコトモ考ヘラレルノデア  
リマス、其ノ他考ヘテ見マスレバ種々ナル  
財源ガソコニ横タハッテ居ルヤウニ考ヘル  
ノデアリマスカラ、政府ニ於キマシテハ速力  
ニ是等ノ點ヲ御研究ヲナサレマシテ、而シ  
テ社會事業資金法ヲ制定シ、社會事業ガ眞  
ニ豐富ナル財源ノ下ニ悠々トシテ行ハレル  
ヤウニサレル、斯ウ云フ御意嚮ガアルカナ  
イカ、此ノ點ヲ承リタイノデアリマス、最  
後ニ第五デアリマスガ、先程大臣モ御述ニ  
ナリマシタ此ノ法文ノ中ニ、社會事業委員  
會ヲ制定ノコトガゴザイマシテ、政府ハ社  
會事業ヲ調査シ審議スル爲ニ、中央ニ中央  
社會事業委員會ヲ置ク、斯ウ云フ規定ガア  
ルノデアリマス、又道府縣ノ地方廳ニハ、

地方社會事業委員會ヲ設置スルコトヲ得ト  
云フ規定ガアリマシテ、此ノ規定ニ基キマ  
シテ、追々社會事業委員會ト云フモノガ出  
來ルト思フノデアリマス、是ハ誠ニ結構ナコ  
トデアリマシテ、此ノ委員會ト運用ガ宜シキ  
ヲ得マスナラバ、屹度我國社會事業ノ進  
展ノ爲ニ非常ナ仕合セラ致スコトト考ヘテ  
居ルノデアリマス、併シナガラ此ノ委員會  
ノ組織運用等ニ付キマシテハ、勅令ノ規定  
ニ讓ッテアルノデアリマシテ、如何ナル内  
容デ如何ナル運用ヲ致スカト云フコトハマ  
ダ承ルコトガ出來ナイノデアリマスガ、此  
ノ點ニ付キマシテ、私考ヘマスノニハ、若  
シ此ノ委員會ガ在來能クアリマスヤウニ、  
役員トカ、公務員トカ、名譽職トカ云フヤ  
ウナモノニ依ッテ、大部分ヲ占メラレテ委員  
會ガ出來ルト云フコトデアリマスナラバ、  
折角出來マシタ委員會モ机上ノ空論ニ終リ  
マシテ、實際社會事業ノ進展ニ資スルコト  
ハ困難ダト思フノデアリマス、ソレデアリ  
マスカラ、此ノ中央モ地方モ社會事業委員會  
ガ出來マスレバ、實際社會事業ニ從事シテ  
居ル權威者ヲ少クトモ其ノ委員ノ數ノ半  
數以上置イテ、親シク是等ノ意見ヲ徵シテ、  
中央及地方トモ社會事業ノ指導ニ當ルト云  
フコトニナリマスト、最モ適切ナル効キヲ  
致スコトト信ズルノデアリマス、是ハ勅令  
ノ規定ニ委任ヲシテアルコトデアリマスカ  
ラ、大臣ニ於カセラレマシテモ色々御考究  
ノコトト思ヒマスガ、私ノ信ジマスヤウニ、  
此ノ委員會ノ構成ハ今申シマスヤウナ實際  
ノ、實際家ヲ成ルベク多數網羅シテ、此ノ事  
實ニ適合スルヤウニ御組織ニナル御意図デ  
アルカドウカ、此ノ點ヲ承リタイト思フノ  
デアリマス

○國務大臣(侯爵木戸幸一君) 丸山サンニ  
御答ヲ致シマス、第一ノ御尋ハ今回社會事  
業法ヲ提案致シマシタ趣旨ハ、社會事業ノ  
會事業ノ助成發展ヲ期スルノガ目的デアル  
カト云フ御尋テアツタ存ジマス、我國ノ  
社會事業ノ發達ノ歴史カラ鑑ミマシテモ、  
勿論所謂法ヲ以テ之臨ムト云フノガ本旨  
デナインハ當然デアリマシテ、政府ガ此ノ  
法案ヲ研究致シマシテ、今回提案致シマシ  
タノニ付キマシテモ、勿論助長誘導シテ健  
全ナル發達ヲ圖ルト云フコトガ其ノ主眼デア  
ルノデアリマス、社會事業ノ現狀ニ鑑ミマ  
スルト、時ニ不正ナモノモアルノデアリマ  
シテ、是等ハ寧ロ適當ナル指導監督ヲシテ、  
而シテ健全デアツテ優良ナルモノハ益、發達  
シテ行クト云フノガ本旨デアリマシテ、即チ  
監督ガ主眼デハナイノデアリマシテ、助長  
誘導ヲ致シマスコトガ主眼デアルノデアリ  
マス、ソレカラ第二ノ御尋ハ、斯クノ如キ  
基礎ニナル法案ガ出來マスレバ、地方ノ所  
謂主任ニナッテ居リマス官吏アタリガ、此  
ノ法案ヲ振リ窮シテ無用ナル干渉ヲスル虞  
ハナイカト云フ御尋デアリマス、此ノ點  
ハ若シ萬一サウ云フコトガアリマシテハ、  
是ハ法律制定ノ趣旨ニ全ク合致シナイ  
ノデアリマス、今後益、關係官吏ノ教養  
訓練等ニモ努メマシテ、本法制定ノ趣  
旨徹底遺憾ナキヲ期シタイト思ヒマス、尙  
重要ナ機關デアリマスルノデ、御話ノ御趣  
旨ノ通り、出來ルダケ民間ノ社會事業家モ  
ニ付キマシテ、實際ノ社會事業家ヲ多數加  
入、最後ノ御尋ハ、社會事業委員會ノ構成  
ニ付キマシテ、社會事業委員會ハ

○子爵戸澤正己君 贊成  
○子爵秋田重季君 贊成  
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト  
ニ御異議ゴザイマセヌカ  
(丸龜書記官朗讀)  
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス  
ニ付キマシテ、實際ノ社會事業家ヲ多數加  
入、最後ノ御尋見マシテ、社會事業委員會ハ  
重要ナ機關デアリマスルノデ、御話ノ御趣  
旨ノ通り、出來ルダケ民間ノ社會事業家モ  
ニ付キマシテ、社會事業委員會ハ

○政府委員(太田正孝君) 丸山サンカラ  
社會事業法案外二件特別委員  
公爵岩倉 具榮君 侯爵徳川 義親君  
伯爵柳原 義光君 關屋貞三郎君  
子爵米田 國臣君 子爵富小路隆直君  
子爵實吉 純郎君 松井 茂君  
男爵千田 嘉平君 中川 健藏君

下村 宏君	男爵加藤 成之君
男爵山根 健男君	田所 美治君
若尾 璃八君	龍川 儀作君
細田安兵衛君	出光 佐三君
○議長(伯爵松平頼壽君)	日程第十、昭和十二年法律第八十四號中改正法律案、日程第十一、關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案、日程第十二、昭和十三年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、太田政務次官

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中左ノ通改正ス

〔二十億二千二百七十萬圓〕ヲ「六十四億七千六百二十萬圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

下村 宏君 男爵加藤 成之君  
男爵山根 健男君 田所 美治君  
若尾 璃八君 龍川 儀作君  
細田安兵衛君 出光 佐三君

昭和十二年法律第八十五號臨時軍事費特別會計法ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條 政府ハ臨時軍事費出納上必要

アル場合ニ於テハ一時借入金ヲ爲シ

又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金及融通

證券ハ臨時軍事費特別會計ノ歲入ヲ

以テ之ヲ償還スペシ

第一項ノ規定ニ依ル融通證券ハ國債

整理基金特別會計法第二條第二項ノ

規定ノ適用ニ付テハ之ヲ國債ト看做

サズ

參 照

昭和十二年法律第八十四號ハ支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律ナリ

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中左ノ通改正ス

〔二十億二千二百七十萬圓〕ヲ「六十四億七千六百二十萬圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

徵ニ因ル昭和十三年度以降ノ增收額ト利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ノ創設ニ因ル昭和十三年度以降ノ收入額ト

ノ合計額ヨリ徵稅費ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ハ其ノ八割ヲ限り毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

第二條 朝鮮總督府及臺灣總督府ノ各特

別會計ニ於ケル今回ノ煙草定價改正ニ

因ル昭和十三年度以降ノ專賣收入增加額ニ相當スル金額ハ其ノ八割ヲ限り毎

年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

第三條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル北支事件特別稅收入額ヨリ徵稅費ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員太田正孝君演壇ニ登ル〕

○政府委員(太田正孝君) 只今議題トナリ

マシタ昭和十二年法律第八十四號中改正法

律案外二件ノ法律案ニ付キマシテ、提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、先づ昭和十二年

法律第八十四號中改正法律案ニ付申上ゲマス、支那事變ニ關スル經費ニ付キマシテハ、

第七十一回及第七十二回ノ各帝國議會ノ協

賛ヲ經マシテ、其ノ財源ニ充ツル爲ノ公債

發行ヲ爲シ得ル法律ノ制定ヲ見タノデゴザ

イマス、然ルニ事態ノ推移ニ伴ヒマシテ、

更ニ臨時軍事費ヲ追加スルヲ必要トルニ

至ッタノデゴザイマス

〔副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著ク〕

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十二年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

昭和十三年三月十日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中左ノ通改正ス

〔二十億二千二百七十萬圓〕ヲ「六十四億七千六百二十萬圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起債シ得ル金額ノ外七千三百十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附 則

〔政府委員太田正孝君演壇ニ登ル〕

○政府委員(太田正孝君) 只今議題トナリ

マシタ昭和十二年法律第八十四號中改正法

律案外二件ノ法律案ニ付キマシテ、提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、先づ昭和十二年

法律第八十四號中改正法律案ニ付申上ゲマス、支那事變ニ關スル經費ニ付キマシテハ、

第七十一回及第七十二回ノ各帝國議會ノ協

賛ヲ經マシテ、其ノ財源ニ充ツル爲ノ公債

發行ヲ爲シ得ル法律ノ制定ヲ見タノデゴザ

イマス、然ルニ事態ノ推移ニ伴ヒマシテ、

更ニ臨時軍事費ヲ追加スルヲ必要トルニ

至ッタノデゴザイマス

〔副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著ク〕

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十二年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

昭和十三年三月十日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中左ノ通改正ス

〔二十億二千二百七十萬圓〕ヲ「六十四億七千六百二十萬圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時軍事費出納上ノ必要ニ應ジマシテ、機  
宜ノ措置ヲ講ジ得ル途ヲ開キ置クヲ適當ト  
認メタノニ依ルノデゴザイマス、次ニ關東  
局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各  
特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當ス  
ル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルル  
コトニ關スル法律案ニ付テ御說明申シマス、  
今回一般會計ニ於キマシテ支那事變費ノ一  
部ニ充テマスル爲所得稅、法人資本稅、砂糖  
消費稅、取引所稅及臨時利得稅ヲ增徵致シ  
マシテ、尙利益配當稅、公債及社債利息稅、  
通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ヲ新  
タニ設ケルコト致シマスルト共ニ、煙草  
府及樺太廳ノ各特別會計ニ於キマシテモ、  
一般會計ニ於ケルト同趣旨ノ下ニ、概ね右  
ニ準ジマシテ、同種ノ租稅ヲ増徵シ、且新  
稅ヲ設ケルト共ニ煙草ノ値上ヲ致シマシテ、  
其ノ收入額ノ一部ニ相當スル金額等ヲ、毎  
年度豫算ノ定ムル所ニ依ツテ、臨時軍事費特  
別會計ニ繰入ルルコト致シマシテ處、之  
ガ會計上ノ處理ニ關シマシテハ、法律ノ制  
定ヲ必要ト致スノデゴザイマス、最後ニ昭  
和十三年度一般會計歲出ノ財源ニ充テマス  
ル爲、公債追加發行ニ關スル法律案ニ付テ  
御説明申上ゲマス、昭和十三年度歲入歲出  
總豫算ニ伴フ一般會計歲入不足ノ補填ニ付  
キマシテハ、之ニ關スル法律案ヲ今期議會ニ  
提出シテ居ルノデゴザイマスガ、今回別途  
提出致シマシタ同年度ノ歲入歲出總豫算追  
加第一號ニ掲ゲテ居リマスル經費ノ所要財  
源總額三億八千六百四十餘萬圓ノ中カラ、  
增稅其ノ他ノ普通歲入ヲ以テ充テマスベキ  
分三億一千三百四十餘萬圓ヲ差引キマシテ

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
昭和十二年度法律第八十四號中改正法律案  
外二件ハ、昭和十三年度一般會計歳出ノ財  
源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外六  
件ニ關聯致シマスガ故ニ、同一委員ニ併託  
セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ  
動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第十一  
三、昭和十三年度一般會計歳出ノ財源ニ充  
ツル爲公債發行ニ關スル法律案 日程第十一  
四、昭和七年法律第一號中改正法律案 日程  
第十五、造幣局東京出張所廳舍其ノ他ノ新  
營費ニ充ツル爲特別會計ヨリ爲ス繰入金  
ニ關スル法律案、日程第十八、朝鮮事業公  
債法中改正法律案、日程第十九、軍ノ需要  
充足ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關スル法律案、  
政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委  
豫算ニ伴フ歲入補填公債法案方目下御審議  
中ナルニ顧ミマシテ、別ノ法律案ト致シタ  
次第デゴザイマス、以上三件ノ法律案ニ付  
キマシテ何卒御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘ  
ラレムコトヲ御願ヒ致シマス

員長報告、是等ノ七案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ  
ト認メマス、委員長山縣公爵  
○副議長(爵佐佐木行忠君) 御異議ナシ  
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)  
〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

昭和十三年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及  
報告候也

昭和十三年三月九日

委員長 公爵山縣 有道

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和七年法律第一號中改正法律案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及  
報告候也

昭和十三年三月九日

委員長 公爵山縣 有道

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

造幣局東京出張所廳舍其ノ他ノ新營費ニ關スル法律案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及  
報告候也

昭和十三年三月九日

委員長 公爵山縣 有道

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

對文文化事業特別會計法ノ特例ニ關スル法律案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及  
報告候也

<p>昭和十三年三月九日</p> <p>貴族院議長伯爵松平頼壽殿</p> <p>支那事變ニ關スル臨時軍事費ノ財源ニ充ツル爲特別會計ヨリ爲ス繰入金ニ關スル法律案</p> <p>右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也</p>
<p>昭和十三年三月九日</p> <p>委員長 公爵山縣 有道</p> <p>貴族院議長伯爵松平頼壽殿</p> <p>朝鮮事業公債法中改正法律案</p> <p>右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也</p>
<p>昭和十三年三月九日</p> <p>委員長 公爵山縣 有道</p> <p>貴族院議長伯爵松平頼壽殿</p> <p>軍ノ需要充足ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關スル法律案</p> <p>右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也</p>
<p>昭和十三年三月九日</p> <p>委員長 公爵山縣 有道</p> <p>貴族院議長伯爵松平頼壽殿</p> <p>(公爵山縣有道君演壇ニ登ル)</p> <p>○公爵山縣有道君 只今議題トナリマシタ 昭和十三年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外六法律案ノ特別委員會ニ於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、是等法律案ノ内容ニ付キマシテハ、既ニ本議場ニ於テ政府ヨリ説明ガゴザイマシタカラ、此處デハ極メテ大體ノコトヲ申上ゲマス、第一ノ歲入補填公債</p>

ノ發行ニ關スル法律案ハ、所謂赤字公債ヲ  
昭和十三年度ニ於テ五億五千七百餘萬圓發  
行スルコトニ關スル法律案デゴザイマス、  
第二ノ昭和七年法律第一號中改正法律案  
ハ、満洲事件費ノ財源ニ充當スル爲ノ公債  
發行限度ヲ一億二千四百餘萬圓增加スル爲  
ノ法律案デゴザイマス、第三ノ造幣局東京  
出張所廳金其ノ他ノ新營費ニ關スル法律案  
ハ、此ノ新營費ニ充當スル爲、造幣局資金  
ノ中ヨリ三十五萬圓ヲ拂出シマシテ、一般  
會計ニ繰入レヨウト云フ法律案デゴザイマ  
ス、第四ノ對支文化事業特別會計法ノ特例  
ニ關スル法律案ハ、本會計ノ歳出額ノ最高  
限度ヲ當分ノ中二百萬圓增加スルト共ニ、  
收入不足ニ依リ決算上不足ヲ生ジマシタ時  
ハ、積立金ヨリ之ヲ補足シ得ルノ途ヲ開カ  
ウトスルモノデゴザイマス、第五ノ支那事  
變ニ關スル臨時軍事費ノ財源ニ充ツル爲特  
別會計ヨリ爲ス繰入金ニ關スル法律案ハ、  
通信 鐵道、朝鮮、臺灣、樺太、關東ノ各  
特別會計カラ、臨時軍事費ノ財源ニ充ツル  
爲、臨時軍事費特別會計ニ繰入金ヲ爲シ得  
ルヤウニシヨウトスル法律案デゴザイマス、  
第六ノ朝鮮事業公債法中改正法律案ハ、昭  
和十三年度以降ノ繼續費トシテ計上致シマ  
シタ鐵道建設費、改良費及送電施設費ノ財  
源ニ充ツル爲、本法ニ依リ公債ノ發行限度  
ヲ五千二百萬圓ダケ増加シヨウト云フ法律  
案デゴザイマス、第七ノ軍ノ需要充足ノ爲  
ノ會計法ノ特例ニ關スル法律案ハ、支那事  
變勃發以來、軍ノ物資需要が極メテ増加致  
シマシタノデ、其ノ調達ノ圓滑ヲ圖リマシ  
テ、軍事行動ニ支障ナカラシメルヤウニ致  
シマスル爲、現會計法ノ特例ヲ設ケマシテ、  
當分ノ中前金拂、又ハ概算拂ヲ爲シ得ル範

圍ヲ擴張シヨウツル臨時應急的ノ法律案  
デゴザイマス、以上述ベマシタ七ツノ法律  
案ニ關シマシタ、七回ニ瓦リ特別委員會ヲ開  
キマシタ、委員ノ方々ノ御精勵ニ依リ微細  
ノ點迄種々ノ質問應答ヲ重ね、慎重審議ヲ  
致シマシタ、其ノ詳細ニ付キマシテハ速記  
錄ニ依リ御覽ヲ願ヒタイト存ジマス、唯茲  
ニ委員會ニ於ケル質問應答中デ、特ニ重要  
ナルモノニ三ヲ申上ゲタイト存ジマス、赤字  
公債ノ發行ハ、最近ノ增稅ナドニ依リマシ  
テ、近キ將來ニ無クナルモノト了承シテ宜  
イカ、又赤字公債ハ一刻モ早ク無クナスベキ  
モノデアルガ、之ニ對スル政府ノ所見如何  
ト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ  
政府ハ、赤字公債ハ出來得ル限リ之ヲ發行  
シナイデヤツテ行キタイガ、現下ノ情勢デハ  
尙當分ノ間或程度ノ赤字公債ヲ出サザルヲ  
得ナイ見込デアル、事變後ニ於キマシテモ  
直ニ赤字公債ヲ無クナスト云フコトハナ  
カナカ困難デアル、申ス迄モナク財政ヲ運  
用スル者ノ心掛トシテハ、成ルベク赤字公  
債ヲ無クシタノイデアルケレドモ、ココ當  
分ノ間ヘドウシテモ已ムヲ得ナイモノデア  
ルト思ヘレルト云フ趣意ノ答辯デゴザイマ  
シタ、又赤字公債ハ平時ニ於ケル財政ノ遺  
リ繰りノ道具ニアラズト云フ、根本方針ヲ  
確立スルノ要アリヤト考ヘルガ、之ニ對ス  
ル政府ノ所信如何ト云フ意味ノ質問ガアリ  
マシタ、之ニ對シマシテ政府ハ、年々赤字  
公債ガ出テ居ルノハ、國家ノ財政ト致シマ  
シテハ誠ニ殘念ナコトデ、赤字公債ノ無ク  
ナリマスルコトハ、財政上實ハ望マシイコ  
トデアリマシテ、之ニ付テハ歲出方面ニ於  
ケル經費ノ節約、歲入方面ニ於ケル增稅方  
大キナ問題トナリマス、經費ノ問題ニ付キ

マシテハ財政當局トシテ出來得ル限リノ節  
減ヲ各省ニ要求シテ居リマスルシ、増稅ノ  
問題ニ付キマシテモ、出來得ルダケ善處シ  
テ居ル次第アリマシテ、今日ノ情勢デハ  
先ツ此ノ程度ヲ以テ已ムヲ得ナイト考ヘル  
將來ノコトニ關シテハ時機ノ到來ヲ待ツテ、  
徹底的ニ財政行政ノ整理ヲ行ヒ、此ノ難問  
題解決ノ爲ニ努力スベキ考デアルノデアル  
ト云フ趣旨ノ答辯デゴザイマシタ、次ニ滿  
洲事件費ハ將來減少スル見込アリヤ、モット  
經費ノ掛ラヌヤウニ出來ナイモノカ、一步  
ヲ進メテ自給自足ハ出來ナイモノカト云フ  
意味ノ質問ガアリマシタ、之ニ對シテハ政  
府ハ、本年度ノ滿洲事件費ニ於テハ、滿洲  
ニ駐屯シテ居ル軍隊ガ、中支、北滿方面ニ  
交替シテ出動スルコトガ多ク、斯カル經費  
ニ付キマシテハ之ヲ臨時軍事費ニ計上シテ  
アリマスノデ、假ニ本年度ニ於テ支那事變  
ガナカツタモノトスレバ、滿洲事件費ハ更ニ  
多額トナルベキ情況ガアッタ點カラ考ヘマシ  
テモ、將來滿洲事件費ガ直チニ減少スルト  
云フヤウナコトハ期待シ難イト云フ答辯デ  
ゴザイマシタ、而シテ滿洲國自體デ財政ヲ  
賄フコトニ付キマシテハ、政府ハ是ハ誠ニ  
尤モナコトデアルガ、只今ノ所デヘ持込ガ  
非常ニ多クナツテ居リマスケレドモ、今日ノ  
場合或ハ我ガ方トシテハ、萬事ガ滿洲國ヘ  
ノ資本ヲ注ギ込ム時代デアッテ、又一方國防  
上ヨリ見マシテモ已ムヲ得ナイ次第アリ  
マス、理想トシテハ結局共存共榮ノ期ニ達  
スル爲ノ、總テノ計畫ヲ現實ニ樹立シ、進  
メテ行キタイト云フ趣旨ノ答辯デゴザイマ  
シタ、尙以上ノ外、公債發行ノ方法ヤ、公  
債ノ利率ヤ、公債ノ市價ヲドノ程度ニ維持  
スルヲ要スルヤ、日本銀行ノ手持公債可能

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕  
○副議長（侯爵佐々木行忠君） 御異議ナシ  
ト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス  
○子爵植村家治君 贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵  
ノ勧議ニ御異議ゴザイマセヌカ  
「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐々木行忠君) 御異議ナシ  
ト認ヌマス

○副議長(侯爵佐々木行忠君) 七案ノ第一

問題ニ供シマス、七案全部、委員長ノ報告  
通リデ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

官報號外

ト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵  
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 七案ノ第三  
讀會ヲ開キマス、七案全部、第二讀會ノ決  
議通リデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第二  
十、擔保附社債信託法中改正法律案、政府  
提出、第一讀會ノ續、委員長報告、公爵島  
津忠承君○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 擔保附社債信託法中改正法律案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及  
報告候也

昭和十三年三月十日

委員長 公爵島津 忠承

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

(公爵島津忠承君演壇ニ登ル)

○公爵島津忠承君 只今議題ト相成リマシ  
タ擔保附社債信託法中改正法律案ノ特別委  
員會ニ於ケル經過竝ニ其ノ結果ヲ御報告申  
上ゲマス、委員會ハ前後二回ニ亘リマシテ  
之ヲ開キ、最初ニ政府當局ノ説明ヲ聽キマ  
シテ質問ニ移リマシタ、本改正案ハ擔保附  
社債信託法第四條第二號ノ次ニ、株式質ノ依リ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス」ト云  
フ一項ヲ加ヘルモノニアリマス、提案ノ理由  
ハ先ニ本議場ニ於テ政府當局ヨリ説明ガゴザ  
イマシタノデ茲ニ略シマシテ、委員會ニ於ケ  
ル質疑ノ二三ヲ申述べタイト存ジマス、第一  
ハ本改正案ニ「命令ノ定ムル所ニ依リ」トアル  
ガ、ソレハ勅令デアルカ、省令デアルカト云  
フ質問デアリマス、之ニ對シ政府ハ大藏省令  
ヲ以テ規定シタイト考ヘテ居リ、尙此ノ命  
令ニ於キマシテハ、株式ノ種類トカ、擔保  
價格ナドハ規定致サナイデ、唯其ノ手續ヲ  
定メタイト考ヘテ居ルトノ答辯デゴザイマ  
シタ、第二ニハ本法ハ明治三十八年ニ制定  
セラレマシタモノデ、大變古イ法律デア  
ル、其ノ後數回ニ亘ツテ改正ヲ加ヘラレタ  
ノデアリマスガ、此ノ株式質ヲ物上擔保ニ加  
ヘルト云フコトハ至極尤モナコトデアルノ  
ニ、是迄ノ改正ノ時ニ現レズシテ、今日迄  
延ビテ居ルノハ何カ理由ガアルカト云フ質  
問デアリマス、之ニ對シマシテ今日迄是ガ  
實現ヲ見ナカッタノハ、株式ノ價格ガ比較的  
變動ガ多イ爲ニ、長期ノ金融ノ擔保トシテ  
ハ、或ハ適當デハナインデハナイカト云フ  
意見モアッタモノニ依ルノデアリマスガ、近  
來企業ノ增加トカ、株式會社ガ非常ニ發達  
シ、株式モ漸次民衆ニモ普及スルヤウニナ  
リ、又近時經濟組織トシテ、所謂持株會社  
等モ出來マシタノデ、茲ニ株式質ト云フモ  
近時生産力擴充ノ必要ガアリ、之ガ爲ニ事  
業ヲ起スコトニ當リ、ドウシテモ長期資金  
ガ必要トナルノデアリマシテ、長期資金ノ  
爲ニハ社債ノ發行ガ今迄行ハレテ來テ居ル

一號ヲ加ヘ更ニ同條ニ「株式ヲ物上擔保ノ目的ト爲サムストルキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス」ト云フ一項ヲ加ヘルモノニアリマス、提案ノ理由ハ先ニ本議場ニ於テ政府當局ヨリ説明ガゴザイマシタノデ茲ニ略シマシテ、委員會ニ於ケル質疑ノ二三ヲ申述べタイト存ジマス、第一ハ本改正案ニ「命令ノ定ムル所ニ依リ」トアルガ、ソレハ勅令デアルカ、省令デアルカト云フ質問デアリマス、之ニ對シ政府ハ大藏省令ヲ以テ規定シタイト考ヘテ居リ、尙此ノ命令ニ於キマシテハ、株式ノ種類トカ、擔保價格ナドハ規定致サナイデ、唯其ノ手續ヲ定メタイト考ヘテ居ルトノ答辯デゴザイマシタ、第二ニハ本法ハ明治三十八年ニ制定セラレマシタモノデ、大變古イ法律デアル、其ノ後數回ニ亘ツテ改正ヲ加ヘラレタノデアリマスガ、此ノ株式質ヲ物上擔保ニ加ヘルト云フコトハ至極尤モナコトデアルノニ、是迄ノ改正ノ時ニ現レズシテ、今日迄延ビテ居ルノハ何カ理由ガアルカト云フ質問デアリマス、之ニ對シマシテ今日迄是ガ實現ヲ見ナカッタノハ、株式ノ價格ガ比較的變動ガ多イ爲ニ、長期ノ金融ノ擔保トシテハ、或ハ適當デハナインデハナイカト云フ意見モアッタモノニ依ルノデアリマスガ、近來企業ノ增加トカ、株式會社ガ非常ニ發達シ、株式モ漸次民衆ニモ普及スルヤウニナリ、又近時經濟組織トシテ、所謂持株會社等モ出來マシタノデ、茲ニ株式質ト云フモ近時生産力擴充ノ必要ガアリ、之ガ爲ニ事業ヲ起スコトニ當リ、ドウシテモ長期資金ガ必要トナルノデアリマシテ、長期資金ノ爲ニハ社債ノ發行ガ今迄行ハレテ來テ居ル

常道デアリマス、而シテ社債ノ現状ヲ見マスガ、同ジ會社ガ社債ヲ出シマスナラバ、無擔保ヨリモ擔保附ノ方ガヨリ良ク且ニ容易ニ出シ得ルモノト考ヘマシテ、茲ニ株式質ヲ加ヘ、社債金融ノ圓滑ヲ圖リタバ、株式質ヲ趣旨デアルトノ答辯デゴザイマシト云フ、伊勢ノ改正案ニ付テ一部ノ人ガ第三ハ、此ノ改正案ニ付テ一部ノ人ガ疑惑ヲ持ツテ居ル、ソレハ滿洲重工業會社ガ本改正案ハ滿洲重工業會社ノ便宜ノ爲ニ設ケタモノデハナカラウカト云フヤウナ疑惑ク人ガアルガ、此ノ點ハドウデアルカト云フ質問デアリマス、之ニ對シ政府ハ單ニ會社ノ利益ヲ考ヘテ法律ノ改訂ヲナスコトハナインデアリマシテ、且滿洲重工業會社ガ我方國ニ於テ擔保附社債ヲ發行スルト云フコトハ、登記其ノ他ノ關係カラ只今ノ所ナシ得ナイ情勢ニアリマス、今若シ世ハ何等店鋪ヲ有シテ居リマセヌ故ニ、此ノ會社ガ我方國ニ於テ擔保附社債ヲ發行スルト云フコトハ、登記其ノ他ノ關係カラ只今沙汰サレテ居リマスルナラバ、ソレハ全ク誤解ニ基クコトデアリマシテ、此ノ點ハ明カル法律案ト何等カ關聯アルガ如キコトが取扱了承ヲ願ヒタイト云フ答辯デアリマシタ、次ニ第四ニ、例ヘバ茲ニ内容不良ノ大問題ニ満洲重工業會社ト株式質設定ニ關スル法律案ト何等カ關聯アルガ如キコトが取扱了承ヲ願ヒタイト云フ答辯デアリマシテ、株式ヲ擔保トシテ社債ヲ發行出來ルコトナルガ爲ニ、公債消滅ノ資金ガ或方面ニ流レテ、公債消滅ニ惡イ影響ヲ及スコトハナイダラウカトノ質問ニ對シマシテ、公債消滅ニ迄ハ影響ヲ及スマイト考ヘルトノ答辯デアリマシテ、斯くて討論ニ入りマシテ、一委員ヨリ今日ハ長期資金調達ノ最モト本案ハ最モ妥當ナモノデ、今日ノ時宜ニ適シタル改訂デアル、故ニ贊成ヲ表スル旨ヲ述べラレ、更ニ一委員ヨリ本案ノ實施ヲ誤ル時ハ資金ノ二重融通が出來ル爲、經濟界ノ變動ノ時ニ際シテ甚ダシク惡影響ヲ生ズル場合ガ考ヘラレルガ故ニ、本案ノ運用ニ當リ十分ノ注意ヲ望ンデ、本改正案ニ贊成



運用ニ付キマシテハ色々ナムヅカシイコトモ  
ゴザイマスカラ、其ノ點ニ付キマシテハ十

分御注意ヲ願ヒタイ、或ハ内債ニ依リ、或  
ハ外債ニ依リ、次第ニ依ッテハ或程度迄ハ外

國人ノ參與迄モ之ニ認メテ、サウシテ満洲

ガ經濟的ニ發展スルコトガ出來マスルヤウ

ニ、我々ノ此ノ案ヲ協賛致シマス趣旨ヲ能

ク顧ミラレマシテ、ドウカ健全ナ發達、健

全ナル經濟的ノ發達ヲ爲シ得マスルヤウニ、  
私ハ茲ニ希望ヲ申シタイ、此ノ希望ヲ以チ

マシテ本案ニ賛成ヲ致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 他ニ御發言

モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ

第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス

○副議長(侯爵西大路吉光君) 直チニ本案ノ第二讀

會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵  
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第二讀

會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス、全部ヲ問  
題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通  
リテ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス

○副議長(侯爵西大路吉光君) 直チニ本法ノ第三讀

會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス  
ト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本法ノ第三讀

貴族院議事速記録第二十一號  
正誤  
二六一 段行 誤  
三一九 君ニテ 正  
是ニテ

○子爵植村家治君 賛成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵  
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ  
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第三  
讀會ヲ開キマス、本法全部、第二讀會ノ決  
議通リテ御異議ゴザイマセヌカ  
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程全部終  
了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ決定次第  
彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニ  
テ散會致シマス

午後零時七分散會